

東洋医学概論 I

担当教員 野口 恭庸

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第 1 学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

東洋医学的な手法を用いて鍼灸治療を行う場合は、東洋医学的な診察、診断、治療方針、配穴・手技という一連の行程に則って処置が施される。この治療のプロセスを理解するためには、西洋の自然科学思想とは異なる東洋思想を理解し、東洋医学的な思考方法を習得する必要がある。『東洋医学概論 I』では東洋医学の基盤にある東洋思想やその歴史的背景、独自の整体観などを中心に学習し、学修者が東洋医学的にみた身体の正常な形態・機能を理解し、説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	東洋医学の基盤にある思考方法、東洋医学の歴史的背景と成り立ちが説明できる。
2	陰陽論、五行学説の概要が説明できる。
3	東洋医学的な整体観、東洋医学の中における陰陽五行論の運用法が説明できる。
4	気の基本概念、生成、機能が説明できる。
5	気の運行法則、元気、宗気、衛気、営気等、気の各種類ごとの特徴が説明できる。
6	血および津液の基本概念と、その機能が説明できる。
7	蔵象論の基本概念、五臓六腑と奇恒の腑の特徴、並びに五臓の心・心包の機能・特徴が説明できる。
8	五臓の肺の機能およびその特徴が説明できる。
9	五臓の脾の機能およびその特徴が説明できる。
10	五臓の肝の機能およびその特徴が説明できる。
11	五臓の腎の機能・特徴、東洋医学における男女の自然史、老化の概念について説明できる。
12	六腑・奇恒の腑の機能および飲食物の消化吸収と五臓六腑との関係について説明できる。
13	気血の生成、水液代謝と五臓六腑との関係について説明できる。
14	経絡の概念とその変遷、並びに経絡系統の概要について説明できる。
15	十二経脈、奇経八脈の循行と特徴および、臨床における運用について説明できる。

【履修上の注意事項】

本科目は事前に配布するプリントを使って全ての講義を行う。次週の講義内容に関する講義プリントのページ数を毎回提示するので、『中医基本用語辞典』を使ってプリント本文中の専門用語を一つずつ丁寧に調べ、意味の解らない専門用語が無い状態で次の講義に臨むこと。本講義内容を十分に理解・修得しておかないと、4年次の附属鍼灸臨床センターの実習において、患者さんの診療に対応できなくなります。尚、出席登録において、登録時間を超過したものについては欠席とする場合があるので十分に注意すること。

【評価方法】

期末試験：100%（講義期間中にレポート課題、小テスト等を実施した場合は、期末試験90%、レポート10%とする）。

【テキスト】

「中医基本用語辞典」（高金亮、他：東洋学術出版社）

この他に講義プリントを事前に配布する。

【参考文献】

「中医学の基礎」（東洋学術出版社）「漢方用語大辞典」（創医学会学術部主編：療原書店）

東洋医学概論Ⅱ

担当教員 内田 匠治

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

東洋医学的な手法を用いて鍼灸治療を行う場合は、東洋医学的な診察、診断、治療方針、配穴・手技という一連の行程に則って処置が施される。この治療のプロセスを理解するためには、西洋の自然科学思想とは異なる東洋思想を理解し、東洋医学的な思考方法を習得する必要がある。『東洋医学概論Ⅱ』では、東洋医学概論Ⅰで学んだ東洋医学の人体観を確認しながら、その状態（＝正常）から離れた状態としての疾病観、発症要因と発症機序、代表的な病証などを学習し、学修者が患者の疾病の状態を自ら説明・鑑別できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	陰陽論・五行論と東洋医学の病因論の関係について。
2	気血津液について。
3	東洋医学における病因病機の基本概念および、三因論について。
4	外因・六淫の基本概念および特徴について。六淫の「風」の概念および発病や病症の特徴について。
5	内因・七情内傷の基本概念および発病や病症の特徴について。
6	不内外因・飲食労倦、痰飲、お血の基本概念および発病や病症の特徴について。
7	東洋医学的な発病機序の特徴および、八綱弁証、正邪盛衰、虚实の概念について。
8	陰陽失調の基本概念および、陰陽偏盛の特徴と病機・病症について。
9	気血失調、水液代謝失調、内生五邪の特徴と病機・病症について。
10	臟腑病機の基本概念と、五臟の各病証とその病機について（1）肝。
11	五臟の各病証（2）心、脾、肺
12	五臟の各病証（3）腎。六腑の各病証について。
13	経脈（十二正経）における各病証とその病機について。
14	経脈（奇経八脈、経別）における各病証および経筋病証とその病機について。
15	六経弁証とその病機について。東洋医学的病態用語について。

【履修上の注意事項】

事前に配布する講義プリントを中心に授業が展開されます。また「東洋医学概論Ⅰ」の内容の理解が不完全なままでは本科目の授業の理解は不可能です。本科目の受講前には必ず「東洋医学概論Ⅰ」の復習を十分に行っておくこと。教科書の2章3章については授業の進度に合わせて予習をしておくこと。

【評価方法】

期末試験：90% 課題提出物：10%

【テキスト】

講義プリントを配布する。その他「東洋医学概論」（医道の日本社）「中医基本用語辞典」（東洋学術出版社）

【参考文献】

「中医学の基礎」（東洋学術出版社）「漢方用語大辞典」（創医学会学術部主編：療原書店）

東洋医学概論Ⅲ

担当教員 篠原 昭二

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

東洋医学的病態把握を行うために、四診から病因や病証を考える。病証では①臓腑病、②経脈病、③経筋病、④外感病の存在があるかどうか、四診を通して明らかにする能力をマスターすることが主である。あわせて、鍼灸医学における身体観や生命観などの理解を深めるとともに、医療人としての基本的な態度を養うことも目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス:現代医学的、東洋医学的な鍼灸診療方式の特徴について学び、理解する。
2	臓腑経絡学説について:臓腑経絡学説に基づく鍼灸診察・治療法の概要を説明できる。
3	東洋医学の診察法(舌診、問診、背・腹診、切穴)が理解できる。
4	臓腑病の特徴、主な臓腑の病証とその特徴を説明できる。
5	経脈病の主な病証とその特徴を説明できる。(経脈の切経、切穴ができる)
6	経筋病の主な病証とその特徴を説明できる。(栄穴、兪穴の取穴ができる)
7	肩こりを診断して、治療を行う。肩こりにも種々のパターンがあることを理解する。
8	頸部痛を診断して、治療を行う。頸部痛にも種々のパターンがあることを理解する。
9	肩関節痛を診断して、治療を行う。肩関節痛にも種々のパターンがあることを理解する。
10	肘から手の痛みを診断して、治療を行う。肘から手の痛みのパターンがあることを理解する。
11	腰痛を診断して、治療を行う。腰痛にも種々のパターンがあることを理解する。
12	臀部痛を診断して、治療を行う。臀部痛にも種々のパターンがあることを理解する。
13	膝痛を診断して、治療を行う。膝痛にも種々のパターンがあることを理解する。
14	足関節痛を診断して、治療を行う。足関節痛にも種々のパターンがあることを理解する。
15	臓腑経絡学説に基づく鍼灸の診断・治療方式を理解する。

【履修上の注意事項】

「東洋医学概論Ⅰ」ならびに「東洋医学概論Ⅱ」の内容が理解できていないと本講義の理解は非常に困難です。先の2科目の復習を十分に行った上で受講すること。特に、①五臓六腑の生理と病理、②五行色体表、③四診情報については、十分予習して講義に参加してください。また、復習がとても重要です。各單元ごとの講義が終了した段階で、重要ポイントに関する復習を十分励行してください。

【評価方法】

期末試験：90% 課題提出物：10%

【テキスト】

篠原昭二：すぐ使える若葉マークのための鍼灸臨床指針、ヒューマンワールド

【参考文献】

1) 針灸学〔基礎編〕東洋学術出版社、2) 中医針灸治療のプロセス：朱江ほか編、篠原昭二監訳、東洋学術出版社

鍼灸基礎理論

担当教員 未定、未定

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

鍼灸医学の基礎となる知識として、学習者が鍼灸医学の歴史を自分の言葉で説明することができる。鍼（はり）・灸（きゅう）の道具の名称・使い方・治療過誤等について学び、高度な鍼灸基礎理論を理解し、それについて患者に説明できる。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス 鍼・灸とは何か？（中井）
- 第2回 衛生的な手洗いと消毒 鍼の保管と管理（中井）
- 第3回 鍼について1（古代九鍼・種類・形態・材質・規格等）（中井）
- 第4回 鍼について2（現代の鍼・種類・形態・材質・規格等）（中井）
- 第5回 鍼について3（基本手技 刺鍼方法・押手・消毒の仕方）（中井）
- 第6回 鍼について4（施術手技 杉山流十二手技 置鍼術・雀啄術・回旋術（中井））
- 第7回 鍼について5（施術手技 杉山流十二手技 内調術・刺鍼転向術）（中井）
- 第8回 鍼の有害事象とその予防・対策1（気胸・内出血・脳貧血）（中井）
- 第9回 鍼の有害事象とその予防・対策2（折鍼・その他のトラブル）（中井）
- 第10回 灸について1（モグサの材料・製造過程・実際に作る・さわる）（中井）
- 第11回 灸について2（線香の材料・製造過程・実際に作る・使う）（中井）
- 第12回 灸について3（施術手技 直接灸・間接灸・八分灸・薬物灸・墨灸）（中井）
- 第13回 灸について4（施術手技 棒灸・箱灸・円筒灸など）（藤木）
- 第14回 灸の有害事象とその予防・対策1（火傷・脳貧血）（藤木）
- 第15回 鍼灸有害事象の事例とその結果について（賠償額の支払い・賠償保険の加入について）（中井）

【履修上の注意事項】

講義前の予習は、各講義回の教科書該当内容について読んで概要をつかんでおくこと。授業中は集中して話を聞くこと。マナーが守れない場合は注意することがあります。色々な作業は積極的に仲間と協力して行うこと。講義後は、もう一度教科書該当ページを読み、ノートにまとめておくこと。

【評価方法】

レポート（20%）、学期末試験（80%）で総合的に評価する。

【テキスト】

図解鍼灸臨床手技マニュアル 尾崎昭弘 医歯薬出版
はりきゅう理論（社）東洋療法学校協会編 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社

【参考文献】

鍼灸治療における感染防止の指針 鍼灸安全性ガイドライン委員会 医歯薬出版

経絡経穴学概論 I

担当教員 内田 匠治

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、国家試験や治療に必要な十二経脈及び督脈・任脈について経絡の流注・各経穴の名称・部位を学習する。学修者が今後自主的に学習出来るよう、初学者には難解な東洋医学で用いる特殊な漢字の読み・書きを解説し、東洋医学理論と経絡経穴学の関係を理解・習得させる。経絡の流注及び経穴の部位は解剖学的な知識を加えながら解説する。以上の学習を通して、学修者が経絡経穴の概要を理解し、鍼灸治療をする上で必要な、自力で選穴、取穴ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業の進め方・国家試験・評価について）経絡経穴の概要
2	督脈の流注と所属経穴（28穴）
3	任脈の流注と所属経穴（24穴）
4	手の太陰肺経（11穴）・陽明大腸経（20穴）の流注と所属経穴
5	足の陽明胃経（承泣～滑肉門まで23穴）の流注と所属経穴
6	足の陽明胃経（外陵～厲兌22穴）の流注と所属経穴
7	足の太陰脾経（21穴）・手の少陰心経（9穴）の流注と所属経穴
8	手の太陽小腸経（19穴）の流注と所属経穴
9	足の太陽膀胱経（1）の流注と所属経穴（睛明～委中まで40穴）
10	足の太陽膀胱経（2）の流注と所属経穴（附分～至陰まで27穴）
11	足の少陰腎経の流注と所属経穴（27穴）
12	手の厥陰心包経（9穴）・少陽三焦経の流注と所属経穴（23穴）
13	足の少陽胆経（1）の流注と所属経穴（瞳子?～肩井まで21穴）
14	足の少陽胆経（2）の流注と所属経穴（淵腋～足竅陰まで23穴）
15	足の厥陰肝経の流注と所属経穴（14穴）・奇穴・要穴

【履修上の注意事項】

教科書は必ず持参すること。本講義は、はり師・きゅう師国家試験に出題される教科の1つであり、他の実習・講義科目においても必要な知識となるため、積極的に授業に参加すること。経穴名など覚える内容が多いため、小テストを多く実施するので、授業時間外の自学自習（予習・復習）に努めること。予習としてはシラバスの進度に合わせて教科書を一読し、解剖学的部位を確認すること。復習としては配布した小テスト対策プリントを主に使用すること。

【評価方法】

レポート・小テスト50%、学期末試験50%

【テキスト】

『経絡経穴概論』教科書執筆小委員会、医道の日本社

【参考文献】

WHO/HPRO標準経穴部位（日本公式版）WHO西太平洋地域事務局、医道の日本社
ボディ・ナビゲーション～触ってわかる身体解剖～ Andrew Biel 医道の日本社

経絡経穴学概論Ⅱ

担当教員 篠原 昭二

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学習者が経穴の部位・作用・臨床的応用法について理解・記憶する事を目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（授業の進め方）要穴について理解できる
2	督脈経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
3	任脈経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
4	肺経・大腸経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
5	胃経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
6	脾経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
7	心経・小腸経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
8	膀胱経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる（1）
9	膀胱経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる（2）
10	腎経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
11	心包経・三焦経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
12	胆経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
13	肝経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
14	五行穴・五俞穴の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
15	まとめ

【履修上の注意事項】

授業に積極的に参加すること。マナーが悪い学生には退室をしてもらうことがあります。また、授業終了時に次の講義内容を予告しますから、その内容について経穴名や取穴法をしっかりと予習して講義に臨んでください。また、講義開始時には、出欠確認を兼ねて、経穴名の書き取りテストを実施します。成績評価は30%を占めます。経穴名や取穴法については、しっかりと復習しておいてください。

【評価方法】

出席確認試験30%（毎回、経穴名を順番にかけるようになること）、期末試験70%とする。

【テキスト】

臨床経穴ポケットガイド361穴（医歯薬出版）

【参考文献】

WHO/HPRO標準経穴部位（日本公式版）WHO西太平洋地域事務局、医道の日本社
ボディ・ナビゲーション～触ってわかる身体解剖～ Andrew Biel 医道の日本社

東洋医学臨床論 I

担当教員 未定、内田 匠治

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

一般目標：鍼灸臨床で遭遇する可能性のある主な疾患について、鑑別診断するための診察法および治療法を身につける。到達目標：1) 鍼灸臨床で遭遇する可能性のある主な症候・疾患の定義、原因と病態を説明できる。2) 患者の愁訴について鑑別診断するための情報を聴取できる。3) 患者に対する診察法を実施できる。4) 鍼灸所見を記述して分類概説できる。5) 患者の愁訴について治療の適否を判断できる。6) 患者に対する治療計画(治療方針・処方例)を説明できる。7) 患者に対する治療方法を実施できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	治療総論：現代医学的および東洋医学的な治療原則・治療計画の特徴を理解する。(藤木)
2	治療各論：1) 頭痛2) 顔面痛3) 顔面麻痺4) 歯痛に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
3	5) 眼精疲労 6) 鼻閉・鼻汁 7) 脱毛症に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
4	8) めまい 9) 耳鳴と難聴に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(藤木)
5	10) 咳と痰 11) 喘息 12) 胸痛に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(藤木)
6	13) 腹痛 14) 悪心と嘔吐 15) 便秘と下痢に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
7	16) 月経異常 17) 排尿異常 18) インポテンツに対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(藤木)
8	19) 肩こり 20) 頸肩腕症候群に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
9	21) 上肢痛 22) 肩関節痛に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
10	23) 腰痛・腰下肢痛 24) 膝痛に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
11	25) 運動麻痺に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(藤木)
12	26) 高血圧症27) 低血圧症28) 食欲不振29) 肥満に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(藤木)
13	30) 発熱 31) のぼせと冷え 32) 不眠に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(藤木)
14	33) 疲労と倦怠 34) 発疹に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
15	35) 小児の症状に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(藤木)

【履修上の注意事項】

1) 教科書は必ず持参してください。毎回の講義ノートを作り授業中配布される資料と共に保管すること。教科書にメモ書きするような勉強の仕方は改めてください。2) 毎回レポートや小テストを課すので期日までに提出してください。3) 本講義は、はり師・きゅう師国家試験に出題される教科の1つですので講義ノートを中心に予習・復習をおこない積極的に授業にのぞんでください。4) 授業態度が著しく悪く周囲の学生に悪影響を与えると判断した場合には退室を命じることがあります。5) 授業中に理解できないことがあれば、教員に質問してください。

【評価方法】

期末試験80%、 課題レポート10%、その他(ノートの提出) 10%

【テキスト】

『東洋医学臨床論(はりきゅう編)』教科書執筆小委員会：著、医道の日本社
『始原東洋医学』有川貞清：著、高城書房 2008年

【参考文献】

症例検討の資料を、テーマに併せて適宜紹介する。

東洋医学臨床論Ⅱ

担当教員 篠原 昭二

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

一般目標：鍼灸臨床で遭遇する可能性のある主な症候・疾患について、鑑別診断するための診察法および治療方法を身につける。到達目標：1) 鍼灸臨床で遭遇する可能性のある主な症候・疾患の定義、原因と病態を説明できる。2) 患者の愁訴について鑑別診断するための情報を聴取できる。3) 四診法による鍼灸所見を記述して分類・概説できる。4) 患者の愁訴について治療の適否や治療計画（治療方針・処方例）を説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	治療総論～現代医学的ならびに東洋医学的な治療原則・治療効果の根拠を理解する
2	外観病：感冒・流感・おたふく風邪症候に対する診断と治療（風熱・風寒・傷寒）が理解できる
3	頸肩腕痛に対する診断と治療法が理解できる
4	腱鞘炎・弾発指に対する診断と治療法が理解できる
5	骨折・脱臼・打撲・捻挫に対する診断と治療法が理解できる
6	腰下肢痛に対する診断と治療法が理解できる
7	膝痛に対する診断と治療法が理解できる
8	運動麻痺に対する診断と治療法が理解できる
9	リウマチ・アトピー性皮膚炎の診断と治療法が理解できる
10	うつ病・更年期の躁鬱・ノイローゼ等に対する診断と治療法が理解できる
11	頭痛・眩暈・顔面麻痺・歯痛に対する診断と治療法が理解できる
12	下痢と泄瀉・便秘に対する診断と治療法が理解できる
13	婦人科系愁訴に対する鍼灸治療の診断と治療法が理解できる
14	老年病・小児の症状に対する鍼灸治療の診断と治療法が理解できる
15	健康・予防（治未病）と鍼灸治療（東洋医学的な概念と治療方法）について理解できる

【履修上の注意事項】

1) 毎回の講義ノートを作り授業中配布される資料と共に保管すること。2) 本講義は、はり師・きゅう師国家試験に出題される教科の1つですので、講義ノートを中心に予習・復習をおこない積極的に授業に臨んでください。3) 授業態度が著しく悪く周囲の学生に悪影響を与えると判断した場合には退室を命じることがあります。また、講義ごとに確認テストを実施することがありますから、しっかり授業に集中してください。

【評価方法】

配点は期末試験100%。

【テキスト】

配布資料

【参考文献】

- 1) 篠原昭二：『補完・代替医療 鍼灸』、金芳堂、2014。
- 2) 『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』東洋療法学校協会教科書執筆小委員会：著、医道の日本社

鍼灸安全管理学

担当教員 塚本 紀之

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

感染予防や医療事故の防止に関する基本的知識を学修し、安全で安心な鍼灸医療を実践できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	概論：鍼灸医療の安全
2	鍼灸医療におけるリスクマネジメント
3	鍼灸医療事故への対応（1）事故直後の対応
4	鍼灸医療事故への対応（2）事故後の長期対応
5	鍼灸医療事故防止対策
6	鍼灸医療事故の法的解決・賠償責任保険
7	感染防止対策（1）病原微生物と感染
8	感染防止対策（2）感染症の予防
9	感染防止対策（3）施術上注意したい感染症
10	感染防止対策（4）手指消毒と施術野の消毒、消毒薬の効果、免疫学的測定法（体験学習）
11	感染防止対策（5）器具の消毒と滅菌、保管、消毒薬の効果判定（体験学習）
12	鍼灸医療環境の構築と保持、廃棄物の処理（感染性廃棄物を含む）
13	鍼灸治療の禁忌と傷害事故の防止
14	鍼灸医療機器の安全管理
15	鍼灸医療事故の具体例と対策（発表会）まとめ

【履修上の注意事項】

講義前の予習：第1回目の講義時に配布する教科書対応表に記載されている各講義回の教科書該当ページを参照して概要をつかんでおくこと

講義後の復習：各回の講義を聴講後、もう一度教科書該当ページを読み、復習しておくこと。

【評価方法】

学期末試験（80%）、体験学習課題レポート（10%）、課題発表（10%）

【テキスト】

①鍼灸医療安全対策マニュアル（医歯薬出版）②わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂2版（藤本秀士 編著 南山堂）③鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス（北村清一郎 南江堂）

【参考文献】

鍼灸医療安全ガイドライン（尾崎昭弘・坂本 歩/鍼灸安全性委員会 編 医歯薬出版）

はりきゅう理論 I

担当教員 田口 太郎

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 鍼灸施術の意義と特徴、様々な用具と施術法、鍼灸施術の適応および禁忌、リスク管理について学び、実習に活用することができる。
- 2) 鍼灸治療の治効理論（はりきゅう理論Ⅱ）を学ぶ上で必要となる解剖学及び生理学の基礎知識について説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	概論：鍼灸施術の意義と特徴・治効理論の特殊性
2	鍼・灸の材料と製法・用具・一般的な術式及び特殊な術式の種類
3	鍼灸施術の臨床応用と禁忌
4	鍼灸施術における有害事象とリスクマネジメント
5	鍼灸治効理論の解剖生理：感覚の種類について
6	鍼灸治効理論の解剖生理：神経線維の種類について
7	鍼灸治効理論の解剖生理：情報伝達の機序とルートについて
8	鍼灸治効理論の解剖生理：反射の種類と機序について
9	鍼灸治効理論の解剖生理：自律神経の構成と役割について
10	鍼灸治効理論の解剖生理：交感神経・副交感神経による制御と応答について
11	鍼灸治効理論の解剖生理：末梢循環の調節について
12	鍼灸治効理論の解剖生理：内分泌系の作用について
13	鍼灸治効理論の解剖生理：細胞性免疫・液性免疫とその連関について
14	鍼灸治効理論の解剖生理：炎症反応と痛みについて
15	鍼灸治効理論の解剖生理：アレルギーについて

【履修上の注意事項】

1. 出席に関しては学則に定めるものに加えて、「鍼灸スポーツ学科 講義・実習科目の出席に関する注意」（オリエンテーション時に配付されたもの）を熟読の上、授業に参加すること（単位修得に直接関係する事柄なので厳守すること）。
2. 各回の内容に関連する解剖学・生理学の予習をして授業に臨むこと。
3. レポート作成は毎回の講義中におこなう。前回の内容が中心となるので必ず復習しておくこと。

【評価方法】

レポート・小テスト合計 50%、筆記試験 50%

【テキスト】

はりきゅう理論（東洋療法学校協会編 医道の日本社）
 生理学テキスト第7版（大地陸男 文光堂） 解剖学第2版（河野邦雄ほか 医歯薬出版）

【参考文献】

標準生理学（本郷利憲他 監修 医学書院）・ネッター解剖学アトラス（Frank H. Netter著 相磯貞和訳 南江堂）・新しい鍼灸診療（北出利勝 編集 医歯薬出版）

はりきゅう理論Ⅱ

担当教員 塚本 紀之

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

鍼灸の様々な科学的研究より明らかになりつつある治効作用機序について、自分の言葉で簡潔に説明できる。

【授業の展開計画】

1. 鍼灸治効理論 (1) 体表の感覚受容器
2. 鍼灸治効理論 (2) 痛覚
3. 鍼灸治効理論 (3) 鍼鎮痛のメカニズム
4. 鍼灸治効理論 (4) 筋緊張の調節
5. 鍼灸治効理論 (5) 反射
6. 鍼灸治効理論 (6) 鍼灸刺激と自律神経
7. 鍼灸治効理論 (7) 鍼灸刺激と代謝
8. 鍼灸治効理論 (8) 生体防御系の成り立ち
9. 鍼灸治効理論 (9) 自然免疫
10. 鍼灸治効理論 (10) 獲得免疫
11. 鍼灸治効理論 (11) エフェクター細胞
12. 鍼灸治効理論 (12) 鍼灸刺激と免疫反応の調節 (神経系、内分泌系と免疫系)
13. 鍼灸治効理論 (13) 異物の見分け方 (HLAと移植)
14. 鍼灸治効理論 (14) 免疫系の破綻 (アレルギー、自己免疫、免疫不全)
15. 鍼灸治効理論 (15) 基礎から臨床へ ～鍼灸と生活習慣病～

【履修上の注意事項】

はり・きゅう理論Ⅱは、はり師きゅう師を目指す学生にとって、必要不可欠な科目の1つである。

学生の十分な予習・復習が必要である。

講義前の予習：第1回目の講義時に配布する教科書対応表に記載されている各講義回の教科書該当ページを参照して概要をつかんでおくこと

講義後の復習：各回の講義を聴講後、もう一度教科書該当ページを読み、復習しておくこと。

【評価方法】

学期末試験 (90%)、レポート (10%)

【テキスト】

①はりきゅう理論 (東洋療法学校協会 編 医道の日本社) ②生理学 (第3版 東洋療法学校協会 編 医歯薬出版)

【参考文献】

①ネッター解剖学アトラス (Frank H. Netter 著 相磯貞和 訳 南江堂) ②標準生理学 (小沢瀨司、福田康一郎 総編集 医学書院) ③わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂2版 (藤本秀士 編著 南山堂)

鍼灸医学総合演習

担当教員 未定、浅井 福太郎、内田 匠治

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

一般目標：鍼灸医学の基礎的な知識としての現代医学、東洋医学を理解し、教科を超えて知識を統合することができる。個別目標：これまでの学習の理解度をはかる小テストや、個々の学生の進路を総合的に勘案して、面談を通して教員学生が相互に話し合い決定する。決定した目標について、（具体的には解剖学、生理学、臨床総論、臨床各論など）鍼灸医学の基礎的な内容を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

教員は個々の学生の進捗状況に合わせてグループ分けを行い、グループごとの到達目標を設定しそれぞれのグループに担当する教員を配置する形でグループ学習を指導する。

【履修上の注意事項】

小テストとして課される課題は、毎回前週に配布する。小テストは合格するまで何度でも再試験を実施する。すべて合格するためには自宅においての予習・復習が不可欠であり、授業時間外の指導や模擬試験などにも積極的に参加すること。わからないことや小テストの再受験を希望する者は授業時間外にも担当教員らのもとに来ること。

【評価方法】

期末試験50%，小テスト50%

小テストとして実施するすべての課題を合格して50点とし、以下の数式によって評価点を算出する。

$(\text{本試験}100\text{点満点素点}) \times 0.5 + (\text{小テスト}50\text{点}) \times (\text{本試験素点}/100) = \text{評価点}$

補講や授業時間外の予習・復習への取り組みなどを総合的に評価して（予習・復習による自主的学修態度）とし、上記評価点に加味することができる。

【テキスト】

解剖学マスター、生理学マスター、新版経絡経穴概論（医道の日本社）『解剖学』『生理学第2版』『臨床医学各論』『臨床医学総論』東洋療法学校協会編（医歯薬出版）

【参考文献】

学生の個々の状況に合わせて、適宜紹介する。

社会鍼灸学

担当教員 未定、内田 匠治

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

一般目標：社会的ニーズと鍼灸師の役割を理解する。到達目標 1 目的：疾病を医療手段を講じて診療すること。
2 対象と方法：患者の病状により種々に変化する「気・経絡」の状態を正確に診察・判別して「診療の拠り所」とする。この「気・経絡」の異常な状態を正すことを「治療の目標」とする。体にいろいろな刺激を加える鍼灸手技療法を医療手段とする。3 結果と評価：社会的ニーズと はり師 きゅう師 の特異な役割について理解し、施術を適切に行う診察能力の向上と「気・経絡」の異常を正す治療方法の追求を学習目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論…社会的ニーズと はり師 きゅう師 (鍼灸師) の特異な役割を理解する (藤木)
2	鍼灸師を取り巻く環境；現代社会における医療制度の現状医療保険制度および介護保険制度 (内田)
3	鍼灸師を取り巻く環境；社会保障制度下における鍼灸治療、医療機関における鍼灸師の役割 (内田)
4	地域で期待される鍼灸師の業務…施術所における はり治療 きゅう治療 (藤木)
5	現代社会における鍼灸師の役割…高齢社会における鍼灸師の役割 (藤木)
6	少子化社会における鍼灸師の役割 (内田)
7	女性の健康管理における鍼灸師の役割① (内田)
8	女性の健康管理における鍼灸師の役割② (藤木)
9	ストレス社会における鍼灸師の役割① (藤木)
10	ストレス社会における鍼灸師の役割② (内田)
11	スポーツ傷害 (外傷と障害) における鍼灸師の役割 (内田)
12	QOL (生活の質) の向上と鍼灸師の役割① (藤木)
13	QOL (生活の質) の向上と鍼灸師の役割② (藤木)
14	施術所の経営展開…施術所開設に必要な法律知識、経営各論 (内田)
15	社会的ニーズと はり師 きゅう師 (鍼灸師) の特異な役割 (藤木)

【履修上の注意事項】

1) 教科書は必ず持参してください。毎回の講義ノートを作り、授業中配布される資料とともに保管すること。教科書にメモ書きするような勉強の仕方は改めてください。2) 毎回レポートや小テストを課すので、期日までに提出してください。3) 本講義は、はり師・きゅう師国家試験に出題される総合問題の教科書ですので、講義ノートを中心に予習・復習をおこない積極的に授業にのぞんでください。4) 鍼灸では、スキンタッチで感じる非言語的手段「触れる施術」を行います。5) 体の動きという実感を通して得られるものを大事にしてください。

【評価方法】

期末試験、課題レポートによる評価を各担当教員ごとに行い、その合計点を最終評価とする。期末試験と課題レポートの点数比率は試験開始前に各担当教員から告知を行う。

【テキスト】

『社会あはき学』教科書執筆小委員会、医道の日本社

『医療原論 (いのち・自然治癒力)』渡邊勝之：編著、医歯薬出版社 2011年

【参考文献】

『始原東洋医学』有川貞清：著、高城書房 2008年

社会鍼灸学演習（施設見学を含む）

担当教員 未定、篠原 昭二、塚本 紀之、野口 恭庸、未定、田口 太郎、内田 匠治、浅井 福太郎、久保 春子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸師の社会的ニーズと役割について討論を中心に演習を行う。①鍼灸師を取り巻く我が国の医療、保健、社会福祉環境の現状を理解した上で、地域保健や産業保健、老人保健、災害医療などに鍼灸師が将来どのように貢献できるか考える。②諸外国の医療制度の中の鍼灸の位置づけについても学習し、国際的な見識も深める。③高齢者介護の体験型授業や鍼灸、漢方を診療に取り入れている病院等の施設見学を行う。そして総合的な視野から今後の鍼灸医療の方向性を自ら考えられるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	履修の説明	16	車いす介助(体験学習)
2	はり師きゅう師の業務	17	施設見学演習①
3	マッサージ師・視覚障がい有資格者の業務	18	施設見学演習②
4	柔道整復師の業務	19	施設見学演習③
5	代替・相補医療①(物理療法など)	20	施設見学演習④
6	代替・相補医療②(手技療法など)	21	施設見学演習⑤
7	鍼灸院経営における問題点と課題(討論)	22	施設見学演習⑥
8	鍼灸師の養成機関と鍼灸医学の研究機関	23	施設見学演習⑦
9	災害時の鍼灸治療(東日本大震災時活動紹介)	24	施設見学演習⑧
10	災害時の鍼灸治療(討論)	25	施設見学演習⑨
11	世界の鍼灸事情(中国・韓国)	26	施設見学演習⑩
12	世界の鍼灸事情(欧州・北米・南米など)	27	施設見学演習⑪
13	高齢者介護における鍼灸師の役割(体験学習)	28	施設見学演習⑫
14	障害者介護における鍼灸師の役割(体験学習)	29	まとめ①(施設見学の発表)
15	車いす操作(体験学習)	30	まとめ②(総合討論)

【履修上の注意事項】

1. 討論を行うテーマについて、予習すること。施設見学前には、見学時の質問事項などをあらかじめ準備しておくこと。
2. 自分の意見を積極的に発言すること。
3. 施設見学後は、レポートを作成し提出すること。

【評価方法】

課題発表60%、レポート40%
期末試験は行わない。

【テキスト】

社会鍼灸学演習施設見学の手引き(九州看護福祉大学看護福祉学部鍼灸スポーツ学科編)編・配布資料

【参考文献】

「社会あはき学」(東洋療法学校協会 編 医道の日本社)

臨床コミュニケーション

担当教員 田口 太郎、久保 春子、花田 雄二

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 鍼灸診療の場面を想定したロールプレイおよびカンファレンスを通して、患者と鍼灸師の良好な関係の構築にもとづいた診察・治療の過程が理解・実践できる。
- 2) 鍼灸診療録の特殊性を理解した上で、オリジナル診療録を作成し活用することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	16	四診と医療面接(1):望診について
2	ロールプレイの目的とルール	17	四診と医療面接(2):問診について
3	コミュニケーションの「能力」とは何か	18	四診と医療面接(3):問診について
4	医療人?それはどのような人か	19	四診と医療面接(4):切診と触診の違い
5	医療人としての態度とは	20	四診と医療面接(5):切診① 脈診・切経
6	医療面接と問診の違い	21	四診と医療面接(6):切診② 腹診
7	言語的/非言語的コミュニケーション	22	患者の目的と医療者の目的
8	質問と投げかけの違い	23	何故ラ・ポールの構築が必要なのか
9	開かれた/閉じられた質問	24	医療過誤の原因
10	傾聴:聞くことと聴くの違い	25	鍼灸治療におけるジェンダー
11	共感的態度?誰が決めるのか	26	コミュニケーションの階層について
12	鍼灸治療の特殊性	27	附属鍼灸臨床センター診療見学(前)
13	カルテ記載の目的	28	附属鍼灸臨床センター診療見学(後)
14	カルテの構成	29	第三者SPに対するロールプレイ(前)
15	四診(望・聞・問・切診)と医療面接の関係	30	第三者SPに対するロールプレイ(後)

【履修上の注意事項】

1. 出席に関しては学則に定めるものに加えて、「鍼灸スポーツ学科 講義・実習科目の出席に関する注意」(オリエンテーション時に配付されたもの)を熟読の上、授業に参加すること(単位修得に直接関係する事柄なので厳守すること)。
2. 本実習では毎回ロールプレイについて、お互いに評価を行い、次回にそのカンファレンスを行うので、必ず復習をして参加すること。また、症例の事前告知をおこなうので、病態等の予習をして臨むこと。

【評価方法】

ロールプレイへの取組み(40%)、カンファレンスへの取組み(30%)、評価表(30%)

【テキスト】

「鍼灸臨床における 医療面接」(丹澤章八著:医道の日本社)

【参考文献】

適宜紹介する。

はり基礎実習 I

担当教員 野口 恭庸、浅井 福太郎、花田 雄二

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

はり基礎実習 I では、鍼施術に伴う危険性や必要とされる衛生概念、並びに安全な鍼施術を行う上で必要とされる感染防止対策、さらに医療事故・有害事象に対する防止対策を理解し、学修者による安全かつ衛生的な鍼施術が遂行できることを目的とする。また、学修者が経穴の取穴に必要な形態学的知識を理解し、正確な取穴ができることを目的とする。

【授業の展開計画】

毎回の実習に担当者全員が指導に入る。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	実習内の諸注意が説明できる (ガイドンス)	16	取穴技術の問題点の確認と修正
2	鍼灸医療における安全管理が説明できる	17	安全・衛生的刺鍼操作が説明できる
3	両手・片手挿管の習得を目指す	18	衛生的刺鍼操作手順の技術習得を目指す
4	片手挿管および押手の技術習得を目指す	19	第18回までの確認と自身への切皮を目指す
5	第4回までの習得度の確認と修正	20	自身への旋撚刺法による刺鍼を目指す
6	刺鍼練習台で切皮の技術習得を目指す	21	抜鍼困難時の対処法の習得を目指す
7	旋撚刺法の原理が説明できる	22	自身へ送込み刺法による刺鍼を目指す
8	刺鍼練習台で旋撚刺法の技術習得を目指す	23	敏感な身体部位への無痛刺鍼を目指す
9	第8回までの技術習得度の確認と修正	24	第17～23回までの技術習得度の確認と修正
10	切診に必要な指頭感覚の向上・習得を目指す	25	相手下腿への旋撚刺法による刺鍼を目指す
11	目標に正確に刺鍼できる技術習得を目指す	26	相手下腿の送込み刺法による刺鍼を目指す
12	刺鍼転向法の理解と斜刺の技術習得を目指す	27	相手上肢への旋撚刺法による刺鍼を目指す
13	送り込み刺法の技術習得を目指す	28	第25～27回までの技術習得度の確認と修正
14	刺鍼方向を変えた斜刺の技術習得を目指す	29	刺鍼操作技術すべての確認と修正
15	刺鍼操作技術の問題点の確認と修正	30	取穴技術すべての確認と修正

【履修上の注意事項】

本実習は、毎回新たな内容の技術指導が行われる。授業時間以外に各自で自習時間を確保し、毎日の復習・練習を必ず行うこと。また、一度でも欠席すると実習について行くことが非常に困難になるので、原則として欠席をしないこと。本学科の「実習内規」を熟読し、内容を確実に理解すること。内規のとおり、授業回数の5分の1を越えて欠席した場合は、評価の資格を喪失するので十分注意すること。

【評価方法】

試験は口頭試問及び実技試験

評価 = { 中間試験 (A%) + 期末試験 (B%) } × 取組姿勢 (100% - 授業不参加回数 × 4%)

刺鍼操作技術評価は A=20、B=80 取穴技術評価は A、B ともに 50 とする。

【テキスト】

「図解鍼灸臨床手技マニュアル」(尾崎昭弘著 医歯薬出版)、「鍼灸医療安全ガイドライン」(尾崎昭弘、坂本 歩/鍼灸安全性委員会: 医歯薬出版)、「分冊 解剖学アトラス I」(平田幸男 訳 文光堂)

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

はり基礎実習Ⅱ

担当教員 未定、浅井 福太郎、花田 雄二

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

一般目標：鍼灸臨床に用いる基本的な手技を身につける。到達目標：共通 1)安全性に配慮することができる。2)適切な消毒及び清潔操作ができる。刺鍼技能 1)人体に対して、ほぼ無痛で弾入切皮を行うことができる。2)人体に対して、指定された方向(角度)に刺入できる。3)人体に対して、指定された深度に刺入できる。4)人体に対して、指定された取穴・手法の補瀉手技(管鍼法による現行十七手技)ができる。5)人体に対して、皮内鍼・灸頭鍼・鍼通電を用いた施術(医療行為)を行うことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	鍼術の定義に基づく施術の確認と消毒法 藤木	16	概要説明：ディスプレイ鍼の使い方 浅井
2	乱鍼術：焼山火の手技と透天涼の手技 藤木	17	前胸部・胸脇部への触察、取穴と刺鍼 浅井
3	脈診：手足の要穴への触察、取穴と刺鍼 藤木	18	前胸部・胸脇部への触察、取穴と刺鍼 浅井
4	脈診：肝虚証に対する手足の要穴と刺鍼 藤木	19	腹部の触察、取穴と刺鍼(十七手技) 浅井
5	脈診：脾虚証に対する手足の要穴と刺鍼 藤木	20	腹部の触察、取穴と刺鍼(十七手技) 浅井
6	脈診：肺虚証に対する手足の要穴と刺鍼 藤木	21	腹部の触察、取穴と刺鍼(十七手技) 浅井
7	脈診：腎虚証に対する手足の要穴と刺鍼 藤木	22	頸部・側頭部の触察、取穴と刺鍼 浅井
8	井穴の知熱感度測定法による取穴と刺鍼 藤木	23	耳部・側頭部の触察、取穴と刺鍼 浅井
9	知熱感度測定法による取穴と皮内鍼 藤木	24	背部への触察、取穴と刺鍼—中間試験— 浅井
10	急性炎症に対する取穴と灸頭鍼 藤木	25	背部への触察、取穴と刺鍼 浅井
11	頸部所見による触察、絡穴と刺鍼 藤木	26	背部への触察、取穴と刺鍼手技 浅井
12	頸部所見による触察、下合穴と刺鍼 藤木	27	頭部・顔面部への触察、取穴と刺鍼 浅井
13	腹診所見による取穴と刺鍼手技 藤木	28	頭部・顔面部への触察、取穴と刺鍼 浅井
14	腹診所見による触察、取穴と刺鍼 藤木	29	腰臀部への触察、取穴と刺鍼(鍼通電) 浅井
15	六部定位脈診所見による取穴と刺鍼 藤木	30	腰臀部への触察、取穴と刺鍼(鍼通電) 浅井

【履修上の注意事項】

本実技実習は、鍼灸臨床に用いる基本的な手技を身につけることが目標です。特別な才能ではなく、知りたい、できるようになりたいという気持ちを持ち続け、できるようになるまで練習を実際にやり続けることです。毎回のスキンタッチを通じて身体の声を聞く診察能力の向上訓練を行います。出席に関しては学則に定めるものに加えて、「鍼灸スポーツ学科 講義・実習科目の出席に関する注意」を熟読の上、授業に参加すること(単位修得に直接関係する事柄ですので厳守すること)。実習簿提出のない場合は欠席扱いとする。

【評価方法】

実技試験、課題レポート、確認試験、はり基礎実習Ⅱ—実習簿—
 評価＝{中間試験(20%)＋期末試験(80%)}×出席(100%－欠席回数×4%)

【テキスト】

『新しい鍼灸診療』北出利勝：編集、医歯薬出版社2006年
 『経絡図説』加藤淳、飯泉充長：著、高城書房2007年

【参考文献】

各週の実習内容に併せて、適宜紹介する。

きゅう基礎実習 I

担当教員 田口 太郎、久保 春子、花田 雄二

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 臨床において灸施術を安全に行うための基礎技術を身に付ける。
- 2) 医療従事者としての心構え、特に火を扱って治療を行う者としての責任と自覚を身に付ける。
- 3) 必要なランドマーク（骨・筋等）を触知し、経絡上の経穴を取穴する技術を身に付ける。

【授業の展開計画】

※「艾シュ」（がいしゅ）とはもぐさをひねったものである。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	基礎実習の心構え・実習簿・実習室の使用法	16	知熱灸の手技（自身の前腕部）・取穴
2	施灸練習台を用いた紐状艾シュの作成	17	知熱灸の手技（自身の手部）・取穴
3	施灸練習台を用いた米粒大艾シュの作成	18	知熱灸の手技（足部）・取穴
4	施灸練習台を用いた半米粒大艾シュの作成	19	知熱灸の手技（下腿部）・取穴
5	艾シュへの点火方法・線香と灰皿の取り扱い	20	知熱灸の手技（大腿部）・取穴
6	施灸用具の滅菌方法・酒精綿作成・取穴	21	知熱灸の手技（前腕部）・取穴
7	艾シュ温度・艾シュ重量の計測・取穴	22	知熱灸の手技（手部）・取穴
8	施灸練習紙：米粒大艾シュの作成・取穴	23	知熱灸の手技（肩部）・取穴
9	施灸練習紙：半米粒大艾シュの作成	24	知熱灸の手技（背部）・取穴
10	艾シュの作成と点火（施灸練習紙）・取穴	25	知熱灸の手技（腰部）・取穴
11	有痕灸と無痕灸・熱傷時の処置・取穴	26	知熱灸の手技（殿部）・取穴
12	七分～八分灸の手技（施灸練習紙）・取穴	27	棒灸・温筒灸
13	知熱灸の手技（自身の足部・下腿部）・取穴	28	隔物灸：生姜灸・大蒜灸
14	鍼灸治療所見学	29	隔物灸：塩灸
15	督脈・任脈の体表描画	30	十二正経の描画（肺経～小腸経）

【履修上の注意事項】

1. 出席に関しては学則に定めるものに加えて、「鍼灸スポーツ学科 講義・実習科目の出席に関する注意」（オリエンテーション時に配付されたもの）を熟読の上、授業に参加すること（単位修得に直接関係する事柄なので厳守すること）。
2. 基礎技術は日々の練習が最も重要である。必ず復習を行うこと。
3. 解剖学（骨学・筋学）および経絡経穴学の予習をして実習に臨むこと。

【評価方法】

灸術および取穴技術の実技試験 40%、実習簿 30%、課題 30%

【テキスト】

1. 凶解鍼灸臨床手技マニュアル(尾崎昭弘著 医歯薬出版社)
2. 新版 経絡経穴概論(東洋療法学校協会編 医道の日本社)

【参考文献】

実習中に適宜紹介する。

きゅう基礎実習Ⅱ

担当教員 久保 春子、田口 太郎、花田 雄二

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 臨床において灸施術を効果的に行うための技術を身に付ける。
- 2) 経穴の様々な特性に応じた取穴ができる技術を身に付ける。
- 3) 基礎的な東洋医学的所見をとることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	基礎実習Ⅰのふりかえり・手技の確認	16	糸状灸の手技（足の井穴）・取穴
2	米粒大の交互施灸（施灸練習台）・取穴	17	糸状灸の手技（手の井穴）・取穴
3	交互施灸（自身の足部）・取穴	18	五要穴への施灸：原穴
4	交互施灸（足部）・取穴	19	五要穴への施灸：ゲキ穴
5	交互施灸（腰背部）・取穴	20	五要穴への施灸：絡穴
6	交互施灸（肩背部）・取穴	21	五要穴への施灸：愈穴
7	交互施灸（仙骨部八リョウ穴）・取穴	22	五要穴への施灸：募穴
8	特殊部位：頭部への施灸・取穴	23	要穴への施灸：四総穴・八総穴
9	特殊部位：項頸部への施灸・取穴	24	要穴への施灸：下合穴
10	特殊部位：下腹部への施灸・取穴	25	五愈穴への施灸：榮穴
11	東洋医学的所見の基礎：脈診・取穴	26	五愈穴への施灸：愈穴
12	東洋医学的所見の基礎：腹診・取穴	27	五愈穴への施灸：経穴
13	東洋医学的所見の基礎：舌診・取穴	28	五愈穴への施灸：合穴
14	鍼灸治療所見学	29	奇穴への施灸：四華・患門・六華・小児斜差
15	交互施灸手技及び取穴技能の確認	30	六つ灸への連続交互施灸及び取穴技能の確認

【履修上の注意事項】

1. 出席に関しては学則に定めるものに加えて、「鍼灸スポーツ学科 講義・実習科目の出席に関する注意」（オリエンテーション時に配付されたもの）を熟読の上、授業に参加すること（単位修得に直接関係する事柄なので厳守すること）。
2. 基礎技術は知識だけでは身に付かない。日々復習に励むこと。
3. 解剖学（骨・筋・神経・脈管）および経絡経穴学、東洋医学概論の予習をおこなって実習に臨むこと。

【評価方法】

灸術および取穴技術の実技試験 50%、実習簿 40%、課題 10%

【テキスト】

1. 凶解鍼灸臨床手技マニュアル（尾崎昭弘著 医歯薬出版社）
2. 新版 経絡経穴概論（東洋療法学校協会編 医道の日本社）
3. 鍼灸安全ガイドライン（尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 医歯薬出版社）

【参考文献】

実習テーマに併せて適宜紹介する。

鍼灸臨床実習 I (内科系)

担当教員 篠原 昭二、未定、塚本 紀之、野口 恭庸、未定、内田 匠治

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸臨床において遭遇する代表的な症候のうち、主に内科系疾患領域について、現代医学的・東洋医学的双方からの症候分析、適・不適の判断、治療方針や処方例を学ぶと共に、実際の鍼灸治療に必要な技術を身につける。

【授業の展開計画】

1週3コマを15週に渡って行う(全45コマ)。履修者数に応じて前半クラスと後半クラスに分けて実施する。各週で取り扱う主な症候と担当教員、日程の詳細についてはガイダンス時に連絡する。

【実習テーマ】

のぼせ・冷え／発熱／小児の症状／めまい／耳鳴・難聴／発疹／脱毛症／腹痛／食欲不振／肥満／高血圧症／低血圧症／歯痛／眼精疲労／喘息／胸痛／排尿異常／ED／鼻閉・鼻汁／咳嗽／不眠／疲労・倦怠／頭痛／肩こり／顔面痛／顔面麻痺／悪心・嘔吐／便秘・下痢／月経異常

【履修上の注意事項】

本学科の「実習内規」を熟読し、確実に理解すること。オリエンテーション、または実習の初回に説明する「鍼灸スポーツ学科 授業ならびに試験の出欠席に関する注意」を遵守すること。

【評価方法】

評価方法および評価比率

- (a) 授業時間中の実習内容に関するレポート／小テスト … 50%
- (b) 期末試験期間中に実施する筆記試験 … 25%
- (c) 期末試験期間中に実施する実技試験 … 25%

【テキスト】

各週の実習内容に応じて、必要な際は担当責任者が指定する。

【参考文献】

各週の実習内容に応じて、適宜紹介する。

鍼灸臨床実習Ⅱ（外科系）

担当教員 野口 恭庸、篠原 昭二、塚本 紀之、未定、田口 太郎、内田 匠治、浅井 福太郎、
久保 春子、花田 雄二

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸臨床において遭遇する代表的な症候のうち、主に運動器系疾患領域について、学修者による現代医学的・東洋医学的な症候分析、適応・不適応の鑑別、各種診察技法が実施できること、並びに病態に応じた治療方針や処方の方を立てることができることを目的とする。

【授業の展開計画】

週3コマを15週実施（全45コマ）。身体部位ごとに4つのカテゴリーに分けて解説指導します。各カテゴリーで取り扱う内容は以下のとおり。

日程・担当者の詳細については初回の授業で連絡します。

第1～4週 頸部～上肢の基礎解剖／理学検査／代表的な病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

第5～7週 肩関節の基礎解剖／理学検査／代表的な病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

第8～11週 膝関節・腰背部の基礎解剖／理学検査／代表的な病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

第12～15週 その他の運動器系疾患（脳血管障害の後遺症、線維筋痛症、末梢神経障害、パーキンソン病、関節リウマチ、他）に対する病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

【履修上の注意事項】

事前に配布される実習資料について十分に予習した上で参加すること。また実習で一度行っただけでは実践的な診療技術は習得できないため、実習で指導された内容を、後日各自で繰り返し練習すること。本学科の「実習内規」を熟読し、確実に理解すること。オリエンテーション、または実習の初回に説明する「鍼灸スポーツ学科・授業ならびに試験の出欠席に関する注意」を遵守すること。

【評価方法】

- (a) 授業時間中の実習内容に関するレポート／小テスト … 30%
- (b) 授業時間中の実技試験 … 30%
- (c) 期末試験期間中に実施する筆記試験 … 20%
- (d) 期末試験期間中に実施する実技試験 … 20%

※ (b) においては、授業を欠席し、実技試験のみの受験は認められないので注意すること。

【テキスト】

各カテゴリーにおいて、各担当教員が指定する。

【参考文献】

各担当教員より適宜紹介する。

鍼灸臨床実習Ⅲ（スポーツ鍼灸）

担当教員 田口 太郎、篠原 昭二、塚本 紀之、野口 恭庸、未定、内田 匠治、浅井 福太郎、
久保 春子、花田 雄二

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目では、スポーツ傷害の原因となる動作、症状、病態把握に必要な診察方法を部位別に学び、スポーツ傷害に対する鍼灸治療の実際を身に付けることを目的とする。日常的によく見られるスポーツ傷害を部位別に取り上げ、禁忌・適応不応を含め鍼灸治療についてシミュレーション実習を行い、診察・治療のポイントを修得する。

【授業の展開計画】

1週3コマ×15週（全45コマ）で実施する。
クラス分け・日程・担当教員についてはオリエンテーション時に告知する。

第1週～5週

- 【頸部】頸椎捻挫・バーナー症候群（腕神経叢損傷・神経根症）・頸部椎間板ヘルニア等
- 【肩部】腱板損傷・腱板炎・肩峰下滑液包炎・烏口突起炎・インピンジメント症候群等
- 【肘部】上腕骨外側/内側上顆炎・離断性骨軟骨炎・肘部管症候群等

第6週～第9週

- 【腰部】筋筋膜性腰痛・椎間関節性腰痛・腰部椎間板ヘルニア・根性坐骨神経痛等
- 【骨盤・股関節・大腿部】単径部痛症候群・梨状筋症候群・肉離れ（ハムストリングス）等

第10週～第13週

- 【膝部】靭帯損傷・半月板損傷・ジャンパー膝・オスグッド病・変形性膝関節症等
- 【下腿】シンスプリント・アキレス腱周囲炎・肉離れ・コンパートメント症候群等

第14週～第15週

- 【手関節・手部】捻挫・腱鞘炎（ドケルバン）・弾発指・手根管症候群・ギヨン管症候群等
- 【足関節・足部】足関節捻挫・足底筋膜炎・各筋腱炎・モートン神経腫・足根管症候群等

【履修上の注意事項】

1. オリエンテーション、または実習の初回に説明した「鍼灸スポーツ学科 授業ならびに試験の出欠席に関する注意」を遵守すること。
2. 実習内容によって、準備する物（教科書を含む）や服装等について指定される場合があるので、掲示に注意すること。掲示内容を満たしていない場合は実習の参加を認めない。
3. 毎回のテーマに関連する疾患の病態や検査法について、予習および復習を必ずおこなうこと。

【評価方法】

授業時間中の実技試験（40点）・授業時間中の課題レポート・小テスト等（30点）・期末試験期間中の筆記試験（30点）とし、その合計を最終評価とする。

【テキスト】

各担当教員が指定する。

【参考文献】

『図解 スポーツ鍼灸臨床マニュアル』 松本 勲著（医歯薬出版） / 『スポーツ鍼灸の実際 -最新の理論と実践-』 福林 徹/宮本俊和編集（医道の日本） 等。各担当教員より適宜紹介する。

鍼灸治療所実習 I

担当教員 内田 匠治、篠原 昭二、未定、塚本 紀之、野口 恭庸、未定、田口 太郎、浅井 福太郎、久保 春子、花田 雄二

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療従事者として患者に対する責任を自覚し、来院した患者への対応・治療室への誘導・施術における問診・理学検査・東洋医学的な診察などを行うことができるようになる。また、施術所の運営（予約システム・受付・会計・スタッフとのコミュニケーションなど）についても研修し、将来開業することをも念頭に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
2	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
3	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
4	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
5	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
6	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
7	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
8	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
9	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
10	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
11	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
12	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
13	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
14	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
15	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス

【履修上の注意事項】

原則として遅刻・欠席は認めません。実習の1/5以上を欠席した場合は単位認定しない。オリエンテーション時に伝えられる注意事項を遵守すること。実習前には必ず、担当教員の事前指導を受け、その中で与えられた課題について予習を行うこと。実習後は自己点検により反省点などを整理し、実習簿に記入して提出すること。また、カンファレンスを通して、実習内容を復習し、次回の実習に反映すること。

【評価方法】

実習の事前・事後指導への出席および理解度、実習簿、レポート等の提出物、各指導教員による評価を総合して最終評価とする。

【テキスト】

【参考文献】

鍼灸治療所実習 II

担当教員 未定、篠原 昭二、未定、塚本 紀之、野口 恭庸、田口 太郎、内田 匠治、浅井 福太郎、久保 春子、花田 雄二

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療従事者として患者に対する責任を自覚し、来院した患者への対応・治療室への誘導・治療における問診・理学検査・東洋医学的診察などの技術を修得する。さらに、はり師・きゅう師として責任をもって治療（問診、検査、治療方針の組み立て、鍼灸の施術）できることを目標とする。また、その治療行為に対して客観的に患者や他の医療従事者に対し説明ができるようにする。施術所の運営についても研修を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	指導教員のもとでの鍼灸治療
2	指導教員のもとでの鍼灸治療
3	指導教員のもとでの鍼灸治療
4	指導教員のもとでの鍼灸治療
5	指導教員のもとでの鍼灸治療
6	指導教員のもとでの鍼灸治療
7	指導教員のもとでの鍼灸治療
8	指導教員のもとでの鍼灸治療
9	指導教員のもとでの鍼灸治療
10	指導教員のもとでの鍼灸治療
11	指導教員のもとでの鍼灸治療
12	指導教員のもとでの鍼灸治療
13	指導教員のもとでの鍼灸治療
14	指導教員のもとでの鍼灸治療
15	指導教員のもとでの鍼灸治療

【履修上の注意事項】

原則として遅刻・欠席は認めません。実習の1/5以上を欠席した場合は単位認定しない。オリエンテーション時に伝えられる注意事項を遵守すること。

【評価方法】

実習の事前・事後指導への出席および理解度、鍼灸治療所実習 I・II 実習簿、診療録（カルテ）、症例検討会等の提出物、各指導教員による評価を総合して最終評価とする。

【テキスト】

【参考文献】

経絡治療学会編纂：日本鍼灸医学（基礎編、臨床編）1997年、2001年、2008年改訂
北出利勝編集：新しい鍼灸診療、医歯薬出版、2006年

武道（柔道）

担当教員 小澤 雄二、岡田 依子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

我が国固有の文化である柔道の実技を通して、その特色である攻撃、防御の理合いを知り、巧みで素早い動きを身につけるとともに、相手を尊重し健康や安全に気を配りながら、課題に応じた運動への取り組み方が工夫できるような指導を行う。あわせて、柔道の各種技能を習得し、柔道の楽しさ、必要性を学ぶとともに、生涯にわたる運動習慣を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	柔道の歴史、練習法、授業の説明、諸注意を説明できる
2	柔道の基本動作について説明できる
3	柔道の基本となる技について説明できる
4	柔道のかかり練習について説明できる
5	柔道の約束練習について説明できる
6	柔道の形の意義と練習について説明できる
7	柔道の形の練習と演武について説明できる
8	柔道の固め技について説明できる
9	柔道の固め技の連絡について説明できる
10	柔道の固め技の実践練習について説明できる
11	柔道の立技から固め技への移行について説明できる
12	柔道の練習について説明できる
13	柔道のルールと審判について説明できる
14	柔道の試合について説明できる
15	総合練習及び試合を行う

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

実技試験60% レポート40%

【テキスト】

講義中に資料を配布する。

【参考文献】

特になし

武道（剣道）

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 実技

単位数 1

【授業のねらい】

日本の伝統文化としての剣道を理解できる。剣道の基礎的技能の実践を通じ、心身の鍛練と技能の向上を図り、さらに剣道の特性をとらえ知識の向上、生涯体育としての位置づけを行うことができるようになる。初心者にも分かり易く、基礎から導入し、簡易な試合や審判ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	剣道の歴史、礼法や作法を説明できる
2	稽古着、袴の着装。竹刀と刀の構造。立礼、座礼を説明できる
3	竹刀の握り方と中段の構え、さらには足さばきについて説明できる
4	足さばきと素振り、基本打突について説明できる
5	防具の説明と防具のつけ方としまい方を説明できる
6	木刀を用い4に関する動き、対人技能を説明できる
7	打ち込み練習、切り返しを説明できる
8	木刀と模擬刀を用い日本剣道形の1本目と2本目を説明できる
9	木刀と模擬刀を用い日本剣道形の3本目と4本目を説明できる
10	木刀と模擬刀を用い日本剣道型5本目を説明できる
11	日本剣道型1本目から5本目までの説明ができる
12	応用技能について説明できる
13	約束練習について説明できる
14	自由稽古について説明できる
15	試合の審判法について説明できる

【履修上の注意事項】

予習として剣道のルール、剣道形の解説について十分把握しておくこと
 復習として剣道競技ルール、審判のしかた、剣道形について配布プリントを読み、剣道形の練習をすること。
 竹刀の点検を十分に行うこと

【評価方法】

レポート20%、自主的学習態度10%、実技テスト70%による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

剣道 村嶋恒徳 （ケイ出版）

ダンス (エアロビクスを含む)

担当教員 未藤崎 道子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

ダンスは身体運動による表現であり、身体を通して自己の内なる感情を表現したりイメージや創造性を深めることで心豊かな人間形成につなげていくねらいがある。そこで本講座では、音楽に合わせて思いっきり全身を動かすことができる。ダイナミックに動くことでの爽快感や楽しさを味わい心身を解放していくことができる。さまざまなダンスの基本動作を習得することができる。ダンスウォーミングアップを指導することができる。ダンスを創作し発表することができる。を目標に行っていきます。

【授業の展開計画】

本授業の到達目標は①伸び伸びと身体を動かすことができ、踊ることの喜びや楽しさを味わうことができる②自由にイメージを浮かべコンセプトを持って動きを工夫し創り出すことができる③仲間とともに踊り、創り、見せ合い、交流することで相互理解・絆を深めることができる とする。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (授業の進め方、成績評価の方法、その他諸注意)
2	学校体育における「ダンス」の位置づけと狙い・ダンスを楽しもう!
3	エアロビックダンス体験
4	音楽の違いによる表現法学習・ダンス基本ステップ習得
5	ダンスウォーミングアップとは プログラムを習得する
6	ダンスウォーミングアップの指導法 指導技術を習得する
7	課題運動による表現方法 メリハリ・ダイナミック・リズムカルに良く動こう
8	課題運動実技試験
9	創作ダンスとは/身近な場面やスポーツの場面から創作してみよう
10	現代的なリズムによるダンス創作 グループごとにダンスを作る
11	現代的なリズムによるダンス創作 グループごとに練習
12	現代的なリズムによるダンス創作 発表に向けたグループ活動
13	グループ発表 (実技テスト)
14	ダンスを楽しもう!
15	まとめ

【履修上の注意事項】

実技に支障をきたすものは身につけないこと。
 学習指導要項のダンスの分野に必ず目を通しておくこと。
 現代的なダンス創作に向けて、踊りやすい楽曲をリサーチしておくこと。

【評価方法】

実技試験 30%、発表 60%、学習態度 10%

【テキスト】

中学校学習指導要項解説 保健体育編 (文部科学省)

【参考文献】

明日からトライ!ダンスの授業 (大修館書店)

水泳（アクアビクスを含む）

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考 平成30年度から開講

【授業のねらい】

本授業では、有酸素運動に適した水中運動の体験を通して、水中での運動の留意点を理解するとともに、健康づくりに必要な運動に対する意識を高めることを目的としている。具体的には、「水中での身体の使い方と推進力の理論について理解したものを文章で表現できる」、「水難訓練の手順を実践できる」、「アクアエクササイズを実践できる」、「基本ストロークの技術練習や泳力練習を実践できる」ことを目的としている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（アクアフィットネス概論）
2	水中運動の留意点
3	水中ウォーキング
4	アクアエクササイズ（道具を使ったエクササイズ）
5	アクアエクササイズ（音楽を使ったエクササイズ）
6	水中安全管理について
7	溺者への対応
8	水中運動プログラムの計画と管理
9	けのびの習得
10	フリーストローク (Free-Stroke) の習得
11	ブレストストローク (Breast-Stroke) の習得
12	バックストローク (Back-Stroke) の習得
13	バタフライストローク (Butterfly-Stroke) の習得
14	ターンの習得
15	泳力テスト

【履修上の注意事項】

授業前には水泳に関する参考文献および映像などを確認し、予習をしておくこと。授業後は復習として、コミュニケーションペーパー（振り返りシート）を記入していただきます。外のプールでの実習となるため、日焼け対策を考えておいてください。また、水着、帽子、ゴーグル、タオル、給水用の水筒などは、各自で準備しておいてください。

【評価方法】

本授業は、「授業への取り組み」、「コミュニケーションペーパー」、「泳力」の3つの観点から総合評価を行います。評価配分は「授業への取り組み50%」、「コミュニケーションペーパー30%」、「泳力20%」とします。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布するため、特になし。

【参考文献】

日本水泳連盟(編)：水泳指導教本「地域スポーツ指導者用」、大修館書店。日本赤十字社(編)：赤十字水上安全法講習教本、日本赤十字社。日本スイミングクラブ協会(編)：アクアフィットネス・アクアダンスインストラクター教本、大修館書店。

陸上競技（ジョギング・ウォーキングを含む）

担当教員 玉江 和義

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、理論講義と実技実践の組み合わせによって構成される。理論講義においては、ルールや科学的根拠に基づいて陸上競技を理解・解釈していく。実技では、受講者個人が到達目標を設定し、自律的身体機能の向上を図りながら、基本的な運動技術の獲得、および指導法の基礎について習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（受講者のグループ分け）
2	ウォームアップの内容と方法
3	ランニングドリル+12分間走
4	陸上競技のルール（トラック種目-1）
5	陸上競技のルール（トラック種目-2）
6	ランニングドリル
7	変形リレー競争
8	ウォームダウンの内容と方法
9	Long Slow Distanceの理解と実践
10	陸上競技のルール（フィールド種目-1）
11	陸上競技のルール（フィールド種目-2）
12	トラック種目のコーチング
13	フィールド種目のコーチング
14	陸上競技特有のスポーツ傷害の予防と対策
15	テストとまとめ

【履修上の注意事項】

陸上競技を行なうにふさわしいウェアとシューズを着用のこと。筆記用具なども必ず準備されたい。講義資料を前もって予習しておくこと。また復習すること。

【評価方法】

平常点(30%)とテスト(70%)

【テキスト】

資料を用意し配布する

【参考文献】

練習法百科 陸上競技（大修館）

体操（器械体操を含む）

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成30年度から開講

開講時期 第1学期

授業形態 実技

単位数 1

【授業のねらい】

文部科学省の指導要領改訂により体操は【体づくり運動】と名称変更され、小学校～高等学校までの全ての学年で取り組まれることとなった。本授業ではからだを動かすことの楽しさや心地よさを味わいながら心と体をほぐしたり、体力を高めるための運動の行い方を理解することをねらいとする。本授業での到達目標は①体の基本的な動きができる②目的に応じた運動の行い方を理解し、動き方を創意工夫することができる③仲間と協力し楽しくかつ安全に運動を行うことができる とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法、現代の健康問題を知る、その他諸注意）
2	学校体育における「体づくり運動」の位置づけと狙い
3	体ほぐし運動実習 ～体を動かす楽しさを伝えるプログラムとは～
4	体ほぐし運動実習 ～体の調子を整える運動とは～
5	体ほぐし運動実習と演習 心とからだの相関性について理解を深める
6	ラジオ体操の実践と指導 正しい動き方をマスターする
7	ラジオ体操の実践と指導 ラジオ体操を指導する
8	現代に合った体操をグループで創る（グループワーク発表）
9	体力を高める運動の必要性とは 体の変化と体力の変化を理解する
10	体力を高める運動1 体の柔軟性を高めよう～マット運動・ストレッチ～
11	体力を高める運動2 持続する能力を高めよう～エアロビックダンスを楽しむ～
12	体力を高める運動3 筋力を高めよう～正しいトレーニングの方法～
13	体力を高める運動4 心の柔軟性を高めよう～ヨガ体験～
14	トータルエクササイズの指導例 全てを網羅した運動実施計画を知る
15	まとめ・筆記確認テスト

【履修上の注意事項】

実技中心ではあるが、毎時間必ず筆記用具を持参すること。
毎時間の行った実技の内容を必ずまとめる（復習）
ラジオ体操の歴史について事前に調べておくこと（予習）

【評価方法】

実技試験30%、筆記試験30%、レポート20%、学習態度15%、発表5%

【テキスト】

中学校学習指導要項解説 保健体育編（文部科学省）

【参考文献】

バレー・バスケット

担当教員 坂本 将基、唐杉 敬

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

バレーボールは、ネットを挟んで相対するチームがボールを打ち合い、得点を競うスポーツである。授業を通して、学修者がバレーボールのルールを理解し、基本的な技術・戦術および指導法を習得できることを目指す。バスケットボールは、ダッシュ・ストップ・方向変換・ジャンプなどの激しい動きや素早い身のこなしが要求されるスポーツである。学修者が練習やゲームの中で、攻防の作戦を立てて勝敗を競い合う過程や結果に楽しさや喜びを味わい、チームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たすことができるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	バレーボールの特性の理解、学習の流れ、グルーピング（坂本）
2	ボールやルールを工夫したゲーム、ルールも続き達成感を味わえるルールの工夫（坂本）
3	個人技能の練習、パス、レシーブ、スパイクなどの各個人の能力の向上を目指した練習（坂本）
4	集団技能の練習、ゲームを採り入れた練習、チームでの役割（ポジション）の検討（坂本）
5	集団技能の練習、自分たちにあった役割、そしてフォーメーションを考える（坂本）
6	班別ルール体験ゲーム（坂本）
7	正式ルールによるゲーム（坂本）
8	正式ルールによるゲーム、テスト（坂本）
9	バスケットボールの特性やルール理解、特性に応じた前後左右の動きの練習（唐杉）
10	ボールの感覚を養うボールハンドリング（唐杉）
11	スキルテスト（ゴール下連続シュート・ドリブル・フリースロー）（唐杉）
12	パスとキャッチ力を高めるための練習（三角パス・四角パス・対面パス）（唐杉）
13	ボールキープ力を高める練習（ドリブル鬼ごっこ・ドリブル押し相撲等）（唐杉）
14	ドリブル→シュートの練習、リーグ戦方式でゲーム（唐杉）
15	リーグ戦方式で試合（唐杉）

【履修上の注意事項】

体育実技の出来る服装で出席すること。授業前にはシラバスを見て講義内容を予習し、不明な点は各自で学習すること。また、講義後はその内容を整理し、疑問点があれば、解決するように努めること。

【評価方法】

実技試験 80%、レポート 20%

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

ラグビー・サッカー

担当教員 藤原 大樹

配当年次 2・3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

ラグビー・サッカーは「ゴール型ゲーム」であり、攻守入り混じってボールを奪い合い、得点するという特徴を持っている。この授業では、学修者がラグビーとサッカーそれぞれのスポーツにおけるボール操作とボールをもたないときの動きを習得し、更にはルール、練習法、指導法に関する基礎的な理論を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業内容の説明、ウォーミングアップ
2	サッカー 基礎的なルールの理解
3	サッカー 基礎練習：パス、トラップ、ドリブル
4	サッカー 基礎練習2：シュート、ヘディング
5	サッカー 応用練習1：3vs1、3vs2
6	サッカー 応用練習2：ハーフコートの練習
7	サッカー ミニゲームの指導法、審判法
8	ラグビー 基礎的なルールの理解（DVD視聴）
9	ラグビー 基礎練習：パス、ハンドリング、ランニング
10	ラグビー 基礎練習2：キック、タックル
11	ラグビー 基礎練習3：スクラム、ラインアウト
12	ラグビー 応用練習1：オフENSESの基礎、2vs1、3vs2
13	ラグビー 応用練習2：ディフェンスの基礎
14	ラグビー タグラグビーの指導法と審判法
15	サッカーとラグビーのまとめ

【履修上の注意事項】

トレーニングウェアを着用すること
 サッカーシューズ、ラグビーシューズ又はトレーニングシューズを用意すること
 授業前に指導案レポートを作成すること。授業後に学習内容を復習すること。

【評価方法】

授業態度・授業レポート60% 期末レポート40%

【テキスト】

特になし

【参考文献】

サッカーのルールと審判法（浅見俊雄・永嶋正俊：大修館）
 すぐわかるラグビー ルールと試合（上田昭夫：成美堂出版）

エアロビッグ概論

担当教員 藤崎 道子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

本講座ではこれからの健康づくりの課題となっている様々な場面に適した運動方法を理解することができる。エアロビックエクササイズの種類とそれぞれの運動特性を理解することができる。運動指導者としての指導理論を理解することができる。を目標に行います。

【授業の展開計画】

- 1 現代社会と運動の必要性・フィットネス概論・エアロビックエクササイズとは
- 2 エアロビックエクササイズと運動効果について
- 3 エアロビックエクササイズの種類と運動の違いについて
- 4 グループエクササイズ指導理論
- 5 現場における事例・モデルケース
- 6 運動プログラムの立て方
- 7 運動指導士・運動指導者の役割と健康産業について
- 8 まとめ

【履修上の注意事項】

健康運動実践指導者の資格取得に向けた講義となります。受講者は資格取得の意思があるものとみなします。指導者としてふさわしい態度で臨むこと。現代社会における健康問題について調べておくこと。世代別に見られる健康問題について調べておくこと。

【評価方法】

レポート50%、筆記試験30%、授業態度・発表20%

【テキスト】

【参考文献】

エアロビグ実習

担当教員 藤崎 道子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 実習

単位数 1

【授業のねらい】

健康づくり運動の種類と様々な運動特性を理解することができる。運動指導者としての最低限必要とされる指導スキルを身につけることができる。『指導者とは』という観点で《何を・どのように》伝えていけばいいのかを自ら考え、「話す・伝える」ことができるようになる。運動効果を高めるための正しいフォームや運動のさせ方を学び、対象者に応じた運動を実践させることができる。

【授業の展開計画】

- 1 健康づくりと運動プログラム
- 2 ウォーキングエクササイズ指導の実際
- 3 ジョギングエクササイズ指導の実際
- 4 レジスタンス運動の実際（自体重を使った運動例）
- 5 ウォーミングアップとクールダウン
- 6 アクアエクササイズの運動効果と特性
- 7 アクアウォーキングの指導法
- 8 水中レジスタンス運動の指導法
- 9 アクアダンス（アクアビクス）体験
- 10 エアロビクダンスの運動特性・概論
- 11 エアロビクダンス体験・基本動作習得①
- 12 正しいアライメント・基本動作習得②
- 13 基本動作習得③・運動強度の変化について
- 14 エアロビクダンス指導法①
- 15 エアロビクダンス指導法②（指導の循環）
- 16 運動プログラムの立て方・作成法
- 17 対象者に応じた運動プログラムの考え方
- 18 エアロビクダンス運動指導上の留意点
- 19 介護予防のための運動の考え方
- 20 介護予防運動プログラムの実際
- 21 ストレッチング
- 22 ツールを活用した運動事例（タオル・椅子）
- 23 まとめ

【履修上の注意事項】

健康運動実践指導者及び指導士の資格取得に向けた講義となります。受講者は資格取得の意思があるものとみなします。指導者としてふさわしい態度で臨むこと。事前学習として現代社会の健康問題（ロコモティブシンドローム、認知症、メンタルヘルス、メタボリックシンドローム）について調べておくこと。事後学習として毎時間の学習記録ノートを作成すること。

【評価方法】

実習内容の習得度、レポート、課題運動スキルを総合的に判断し評価する。

【テキスト】

【参考文献】

健康運動指導士養成講習会テキスト

臨床心理学

担当教員 永田 俊明

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、現代の心理学の全体的な動向をコンセプトにした「心理学・臨床講義」というスタンスに立って、必要な基礎的な知識の習得を目指す。とかく従来の臨床心理学は単なる学派の羅列的理解が中心であることが多いが、この授業では、正常との連続変数及び心理学的援助対象のケアシステムの一部として、現代の代表的な心理病理現象をどのように診立て、また、援助を行う必要があるかについての基本知識の習得と心理的援助の勘所に焦点を当てながら教授する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	臨床心理学とは何か（1）史的概説を中心に
2	臨床心理学とは何か（2）精神医学との相違
3	面接と検査 アセスメント
4	観察と行動 データ収集技法
5	正常と異常 DSMを中心に
6	異常心理学 精神的な症状と心理学
7	精神障害 心理的問題と種類
8	発達臨床心理学 ライフサイクルと心理的問題
9	介入理論モデル（1）精神分析とクライエント中心療法
10	介入理論モデル（2）認知行動療法と家族療法
11	介入技法モデル（1）遊戯療法と箱庭療法
12	介入技法モデル（2）SSTと心理教育
13	介入技法モデル（3）さまざまな相談活動
14	コミュニティ・モデル
15	医療・福祉領域の臨床心理学

【履修上の注意事項】

心理的ケアシステムとは何か、事前事後の学習を通して確認すること。

【評価方法】

期末試験：100%で評価 この講義は再試験を実施しない。

【テキスト】

未定

【参考文献】

『精神医学事典』加藤・保崎他編 弘文堂2001年 『心理アセスメントハンドブック』上里監 2001年
『DSM-IV精神疾患の診断・統計マニュアル』加藤他監編 医学書院 1996年

看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護観を迫するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から基礎的な看護学について理解する。

【授業の展開計画】

第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行なう。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
3	国民の健康状態（上妻）
4	看護の対象の理解（上妻）
5	災害時における看護（上妻）
6	国際化と看護、グループワーク：国際化と医療職者（古江）
7	サービスとしての看護、看護サービスの提供の場（古型）
8	医療安全と医療の質保証（古江）
9	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
10	看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護の提供のしくみ：看護をめぐる制度と政策（柴田）
14	小テスト2、看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

系統看護学講座 基礎看護学（1）、茂野香おる 他、（医学書院）

【参考文献】

随時、紹介する。

社会福祉原論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- 2 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- 3 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- 4 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 5 福祉政策の課題について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と福祉
2	福祉制度の概念と理念
3	福祉政策の概念と理念
4	福祉制度と福祉政策の関係
5	前近代社会と福祉1（救貧法、慈善事業）
6	前近代社会と福祉2（博愛事業、相互扶助、その他）
7	近代社会と福祉1（第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉）
8	近代社会と福祉2（経済成長と福祉、その他）
9	現代社会と福祉1（新自由主義、ポスト産業主義、グローバル化）
10	現代社会と福祉2（リスク社会、福祉多元主義、その他）
11	需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
12	資源の概念（資源の定義、その他）
13	福祉政策と社会問題1（貧困、失業、要援護〈児童、老齡、障害、母子・寡婦等〉、偏見と差別）
14	福祉政策と社会問題2（社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
15	福祉政策の現代的課題

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2017年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成28年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2016年）。
内閣府編『（平成28年版）障害者白書』（日経印刷、2016年）。『社会福祉六法』（最新版）。

生活支援論演習

担当教員 田口 太郎

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

“疾患や障害を持ちながら地域で生活する人（具体的には難病患者）を対象に、他学科の学生とチームを組み、フィールドワーク（難病相談支援センターへの訪問や対象者への聞き取り調査等）をとおして、対象者が地域で生活する実情を理解し生活支援の在り方を考える。又、その成果を学内外の関係者に報告することを通して、多職種の専門職が協働することの必要性、その意義について理解を深める。”

【授業の展開計画】

〈展開概要〉科目選択者がチームを組み、疾患や障害を持ちながら地域で生活する人（難病患者）を担当し、健康管理、家庭や地域生活の実情や課題を共有し、生活支援の在り方を考え、その結果について関係者に対する報告会を実施する。

〈展開〉

- 1回目（オリエンテーション）：学習目標・授業展開を理解し、自己の将来像と科目の内容を結びつけ、履修の目的を明確できる。（全員）
- 2・3回目（グループワーク：GW）：難病を抱えながら地域で生活する人の生活の様子をイメージでき、生活の質に影響を及ぼす要因と健康の質に影響する要因について、考えることができる。（全員）
- 4・5回目（GW発表）：事前学習の発表と討議。フィールドワーク計画立案（全員）
- 6・7回目（フィールドワーク）：難病相談・支援センターの役割と機能、そこで働く人々について理解することができる。協力者の体験から、生活の実際と医療との関係、生活や健康を支えるもの、医療・福祉・保健の課題を知ることができる。（全員）
- 8回目（GW発表）：フィールドワークの成果発表と振り返り。今後のフィールドワーク計画（全員）
- 9～12回目（フィールドワーク）：難病を抱えてもQOLを保ち地域で生活するには、どのような課題があるのか、課題を解決するための条件は何か、フィールド調査を通して仮説を発展、修正できる。（全員）
- 13・14回目（GW発表）：病を持って生活の質を保ち生活ができる条件と、実現のために保健医療者にできることについて、問題を絞り、説得力のある発表ができる。病を持つ人にとっての体験を語る意味、医療職者にとっての患者の声を聴く事の意味を考えることができる。（全員）
- 15回目：報告会、まとめ（全員）

【履修上の注意事項】

- 1) 生活支援論（1年後期）を履修していること。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること。
- 3) 各单元ごとの学習課題について、要点を予習復習すること。

【評価方法】

発表内容40%、報告会30%、報告書30%

【テキスト】

大熊由紀子他、患者の声を医療に生かす 医学書院

【参考文献】

カワチ・イチロウ他、ソーシャルキャピタルと健康、等

発育発達論

担当教員 藤原 大樹

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、ジュニア、高齢者、女性、障害者など様々な対象に合わせたスポーツ指導を実施するために必要な発育発達に関する知識を深めることを目的とする。学修者は、授業前半においてジュニア期（発育発達期）の身体的・心理的特徴、スポーツ傷害、トレーニング方法などを身につけ、授業後半では、中高年、女性、障害者の特徴を考慮した運動プログラムの作成ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	発育発達の基礎、スキヤモンの発育発達曲線、生涯スポーツ
3	乳幼児期：身体的特徴、心理的特徴、運動発達
4	青少年期：身体的特徴、心理的特徴
5	青少年期Ⅱ：運動発達、トレーニング
6	子どもの運動・身体活動状況、運動・身体活動の意義・恩恵
7	発育発達とスポーツ傷害、子どものスポーツ傷害予防
8	高齢者：身体的特徴・心理的特徴
9	高齢者：運動・スポーツの意義・恩恵、運動指導
10	女性：男女差、女性特有のスポーツ傷害
11	女性：ジェンダーとステレオタイプ、映画「プリティリーグ」
12	アダプテッドスポーツ：障害の定義と種類、アダプテッドスポーツの現状
13	アダプテッドスポーツ：アダプテッドスポーツ実習
14	アダプテッドスポーツ：福祉から競技へ、映画「マダーボール」
15	授業のまとめ

【履修上の注意事項】

授業中に提示されるキーワードについて復習すること

【評価方法】

試験50% レポート50%

【テキスト】

特になし

【参考文献】

発育・発達への科学的アプローチ：藤井勝紀（2007）三恵社
 子どもの発育発達と健康：青柳領（2006）ナカニシヤ出版

生活栄養学（スポーツ栄養学 I）

担当教員 田中 真知子

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、学習者が健康増進やスポーツ活動を支える栄養について基本的な知識を得ること、体重管理法や水分摂取の意義と実際に理解を深めること、最新のスポーツ栄養のガイドラインを正しく理解できる能力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	健康増進と食生活、アスリートのための適切な栄養補給の必要性と基本的な考え方を理解する
2	栄養素の機能と代謝、5大栄養素を理解する
3	消化吸収機構の概要を理解する
4	推定エネルギー必要量の考え方、エネルギー消費量の定量法を学ぶ
5	食事アセスメントについて一主なアセスメント指標を理解する一
6	栄養指導の基本（1）食生活指針と策定の背景、食事バランスガイドの活用法を理解する
7	栄養指導の基本（2）事例から学ぶ食事の問題点と介入法
8	栄養摂取と運動（1）運動に伴うエネルギー、たんぱく質等の栄養摂取の考え方を理解する
9	栄養摂取と運動（2）肥満者の現状、肥満のメカニズム等について学ぶ
10	スポーツ選手の栄養（1）栄養状態の評価法および筋肉づくりについて理解する
11	スポーツ選手の栄養（2）グリコーゲンローディングについて学ぶ
12	スポーツ選手の栄養（3）スポーツ選手の貧血、運動と活性酸素の関係を学ぶ
13	スポーツ選手の栄養（4）水分摂取の意義と方法、熱中症予防について理解を深める
14	スポーツ選手の栄養（5）サプリメントの種類と使用に当たっての注意点を学ぶ
15	アクティブガイド、食事摂取基準について理解を深める

【履修上の注意事項】

授業の時に、DVDを視聴する場合があります。関連項目のミニテストを行います。授業前にはテキストを熟読しておくこと。また授業終了後には復習をしておくこと。

【評価方法】

講義終了後（16回目）に筆記試験を課す（70%）、授業内のミニテスト（10%）、レポート作成等（20%）で総合的に評価する。

【テキスト】

スポーツと健康の栄養学 下村吉治 有限会社 ナップ（NAP）

【参考文献】

講義の中で、適宜指示する。

トレーニング論

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成30年度から開講

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

トレーニングの歴史を理解し、トレーニングが正しい過程で行われるための学問的解明をとりあげ、種目別にみたトレーニングの正しい知識、方法、手段、スケジュールの作成方法を理解する。日常生活の中に取り入れられるトレーニングにより健康でより充実したスポーツライフの実践を行えるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	トレーニングの広義および概念について説明できる
2	トレーニングの原則について説明できる
3	トレーニングの形態について説明できる
4	トレーニングの内容について説明できる
5	筋力トレーニングの各種方法について説明できる
6	トレーニングの効果と運動への応用について説明できる
7	種目別にみたトレーニング方法について説明できる
8	種目別にみたトレーニング効果について説明できる
9	柔軟トレーニングの理論と実際について説明できる
10	調整力トレーニングの特徴を説明できる
11	発育段階別にみたトレーニングについて説明できる
12	女子のトレーニングについて説明できる
13	ステロイドホルモンとトレーニングとの関係について説明できる
14	年間スケジュール作成方法について説明できる
15	年間スケジュール作成方法について説明できる

【履修上の注意事項】

出席カードの備考欄に授業の内容および感想を必ず書くこと。
講義資料を前もって予習しておくこと。また、復習すること。

【評価方法】

レポート（20%）、テスト（80%）による総合評価

【テキスト】

開講後、適宜提示する

【参考文献】

開講後、適宜提示する

スポーツ指導論

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考 平成30年度から開講

【授業のねらい】

生活の中でスポーツを楽しむ人が増えていることから、スポーツ指導を必要とする対象者も多岐にわたり、そのため、科学的な知見に基づくスポーツ指導論の必要性はますます高まっている。本講義では、スポーツ指導者が身につけておかなければならない指導理論や方法について、スポーツ指導的立場から、自分の言葉で説明できるようになる。特に、スポーツ指導が対象者に及ぼす影響や対象者のやる気を引き出す方法、動機付け、さらに、コーチングにおけるパーソナリティー論の理解や目標設定などについて、自ら実践できるようになる。

【授業の展開計画】

生涯にわたり健康で活力にあふれた、明るく豊かな生活を過ごすために不可欠である体育・スポーツへの導きを問い、生涯スポーツ、スポーツ推進に寄与すべく指導者としての施策、方法を学習する。

1. スポーツ指導の意義と目的及び人間形成に及ぼす影響について説明できる
2. スポーツ指導に関する心理的側面（パーソナリティー論を含む）について説明できる
3. スポーツ指導における動機づけについて説明できる
4. スポーツ指導計画の作成について説明できる
5. コーチングに役立つ心理技法について説明できる
6. やる気を育てる目標設定の方法について説明できる
7. スポーツ集団のまとめ方について説明できる
8. スポーツ指導においてメンタル面での強化法について説明できる

【履修上の注意事項】

「授業前の課題に取り組むこと」「授業後に復習しておくこと」

【評価方法】

レポート70%、発表30%による総合評価

【テキスト】

講義中に資料を配布する。

【参考文献】

開講後、適宜提示する。

コーチング論

担当教員 小澤 雄二

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

スポーツ指導者として求められる理想像、役割についてスポーツ指導的立場から、自らの言葉で説明できるようになる。生涯にわたり健康で活力にあふれた、明るく豊かな生活を過ごすために不可欠である体育・スポーツへの導きを問い、生涯スポーツ、スポーツ推進に寄与すべく指導者としての施策、方法について、自らの意見を持ち実践できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	スポーツ指導者としての役割について説明できる
2	指導者の資質と心構え（倫理を含む）について説明できる
3	生涯スポーツの観点から指導者に求められるものについて説明できる
4	スポーツ指導者の現状について説明できる
5	指導者とプレーヤーとのかかわりと役割（ミーティングの方法を含む）について説明できる
6	スポーツ指導上の心得について説明できる
7	指導計画のたて方について説明できる
8	スポーツ医科学とのかかわりとその重要性について説明できる
9	スポーツの安全性と管理（スポーツ裁判の事例）について説明できる
10	諸外国におけるスポーツ指導の現状と文化性について説明できる
11	スポーツ指導の実践・方法について説明できる
12	スポーツマネジメントからみた指導者について説明できる
13	発育段階別にみたスポーツ指導（世界をめざすアスリートの発掘・育成を含む）について説明できる
14	性差におけるスポーツ指導について説明できる
15	世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割について説明できる

【履修上の注意事項】

「授業前の課題に取り組むこと」「授業前に復習しておくこと」

【評価方法】

レポート70%、発表30%による総合評価

【テキスト】

講義中に資料を配布する。

【参考文献】

開講後、適宜提示する。

メンタルマネジメント論

担当教員 藤原 大樹

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、学修者は、メンタルトレーニング技法、ストレス対処法、チームビルディング法などに関する知識を深め、スポーツ現場におけるメンタルマネジメントの基礎を理解できるようになる。この授業は、講義、ディスカッション、メンタルトレーニング技法の演習によって構成している。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	競技力向上とメンタルマネジメント
2	やる気を高める方法：動機づけと目標設定理論
3	情動のコントロール：リラクゼーションとサイキングアップ、あがり
4	注意と集中の技術：注意のスタイルと集中力の高め方
5	イメージトレーニング：イメージ技法
6	競技場面への応用：スランプ、心理的コンディショニング、指導者のメンタルマネジメント
7	競技の特徴に合わせたメンタルマネジメント（個人競技）：プレゼンテーション
8	競技の特徴に合わせたメンタルマネジメント（集団競技）：プレゼンテーション
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

授業後に課題レポートを作成すること

【評価方法】

プレゼンテーション50%、レポート50%

【テキスト】

【参考文献】

スポーツメンタルトレーニング教本：日本スポーツ心理学編（2005）大修館書店
選手とコーチのためのメンタルマネジメント・マニュアル：日本体育協会（1997）大修館書店

スポーツ経営学

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成30年度から開講

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

我が国にとってスポーツは、単なる個人的な楽しみではなく、政治・経済・教育・国際・医療など様々な分野を巻き込み、これまで以上に、大きな力を持つことが想定される。この大きな力を個人にとっても社会にとっても有益で健全なものに方向づけていくためには、どのような知識・知恵が必要になるのか。本授業では、スポーツ経営学といった学問領域における知を基軸とし、スポーツに関する組織や制度（仕組み）を理解することで、スポーツ組織の力を高めたり、活用したりできる資質を養うことを目的としている。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション（スポーツ組織の3つの仕事）
2. スポーツ経営の主体と環境（スポーツ組織の実態/パブリックリレーションズ/環境適応）
3. スポーツ組織の顧客（スポーツ市場/スポーツ消費者行動/イノベーション普及過程）
4. スポーツ組織の経営資源（競争地位/スポーツの経営資源/ブランド化）
5. スポーツ経営の政策基盤（スポーツの公共性/スポーツ政策/指導者養成システム）
6. スポーツ組織の製品コンセプト（製品構造/製品ライフサイクル/スポーツプロダクト）
7. サービス業としてのスポーツ施設（スポーツサービス/スポーツプロデュース/指定管理者制度）
8. 社会文化事業としてのスポーツイベント（種類と規模/スポーツベネフィット）
9. スポーツマーケティング戦略（市場細分化/マーケティングミックス/プロモーション）
10. スポーツ組織の設計および計画・コントロール（組織文化/経営計画/意思決定/経営評価）
11. スポーツ組織のスタッフ（インセンティブ/マネジメントスキル/リーダーシップ）
12. 企業とスポーツ経営（競技者育成指導法/競技チームマネジメント/リーグ経営）
13. 地域とスポーツ経営（地域スポーツ政策/総合型地域スポーツクラブ/スポーツ推進委員）
14. 学校とスポーツ経営（学校運動部活動/スポーツ少年団/アクティブチャイルドプログラム）
15. 定期試験

【履修上の注意事項】

授業前は参考文献やインターネット等でスポーツ経営学やスポーツマネジメントに関する言葉の意味を予習しておいてください。授業後は、毎時間、コミュニケーションペーパーを記入していただき、振り返りを行います。

【評価方法】

本授業は「授業への取り組み（グループワークを含む）：30%」「コミュニケーションペーパー（毎時提出）：20%」「試験：50%」の3つの視点で総合評価する。

【テキスト】

スポーツ経営学（改訂版） 山下秋二・中西純司・畑攻・富田幸博（編） 大修館書店 ￥2800+税

【参考文献】

図解スポーツマネジメント 山下秋二・原田宗彦（編） 大修館書店 ￥1800+税
 スポーツマネジメント 原田宗彦・小笠原悦子（編） 大修館書店 ￥1900+税

健康管理とスポーツ医学

担当教員 忽那 龍雄、矢澤 克典、平崎 和雄

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、「ヒト」の心身の生理機能は、子供から老年者、及び性により異なり、スポーツは心身に対し種々な影響をもたらすことを理解することができる。人はスポーツという負荷に対して適応するように機能を変化させるが、スポーツには功罪がある。スポーツ活動が循環器系、呼吸器系などの主要臓器の機能に及ぼす影響を理解し、競技者に発症するオーバートレーニング症候群、突然死、暑熱・寒冷等の特殊環境下で起きる正常時とは異なる生体反応を理解する。次いでメディカルチェックやドーピングコントロールの重要性について認識することができる。

【授業の展開計画】

下記の項目について講義で学習を進める。

週	授 業 の 内 容
1	健康とは、スポーツ医科学とは、生体の年代別生理機能、安全な運動強度が認識できる（忽那）
2	スポーツによる循環器系、呼吸器系、などの主要器官の順応が認識できる（平崎）
3	スポーツ心臓と病的肥大の成立、不整脈、動脈硬化に対するスポーツの効用が説明できる（忽那）
4	気管支喘息、過換気症候群の病態とスポーツ活動を行う上での注意事項が説明できる（忽那）
5	スポーツ活動時における感染症の対応策について説明できる（忽那）
6	競技者に発症する病的現象（オーバートレーニング、突然死）の機序と予防策が認識できる（平崎）
7	競技者にみられる病的現象（減量・摂食障害、スポーツ貧血）の機序と予防策が認識できる（平崎）
8	骨粗鬆症の病態、生活習慣病に対するスポーツの効用について説明できる（忽那）
9	高所、低酸素、高圧下の生体反応と特殊環境下のスポーツ活動の注意事項が認識できる（忽那）
10	熱中症の病態と予防対策 寒冷環境下での生体反応とスポーツ活動の注意事項が認識できる（忽那）
11	女性にのスポーツ障害の特徴、高齢者等の安全な健康運動プログラムを説明できる（忽那）
12	成長期スポーツ活動の功罪と安全基準について認識することができる（忽那）
13	内科的、整形外科的メディカルチェックの手順と方法について理解することができる（忽那）
14	ドーピングコントロールの必要性和検査手順について認識することができる（忽那）
15	駅伝、ラクビー、スキー等の冬季競技等の競技別健康管理の要項を認識することができる（忽那）

【履修上の注意事項】

「ヒト」心身の生理機能を理解し、自らの健康管理について考えてみる。またスポーツ医学とはどのような事象を取り扱う医・科学専門分野であるのか調べておくこと。また復習も行うこと。

【評価方法】

定期筆記試験（100％）にて評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門テキスト 第4巻 健康管理とスポーツ医学

【参考文献】

身体の測定・評価

担当教員 倉野 久美、井手 裕子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が、身体能力としての体力向上についての基本的事項の理解と、向上の目安となる項目の測定と評価方法について学び、スポーツ障害の予防やスポーツパフォーマンスの向上への寄与することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論（倉野・井手）
2	姿勢・アライメントの評価（倉野・井手）
3	形態計測（倉野・井手）
4	関節弛緩性の評価・関節可動域測定・筋タイトネスの検査（倉野・井手）
5	関節弛緩性の評価・関節可動域測定・筋タイトネスの検査（倉野・井手）
6	徒手筋力検査（倉野・井手）
7	機具を用いた筋力評価（倉野・井手）
8	痛みの評価（倉野・井手）
9	バランスの評価（倉野・井手）
10	全身持久力の検査測定（倉野・井手）
11	敏捷性・協調性の検査測定（倉野・井手）
12	身体組成の検査測定（倉野・井手）
13	一般的な体力測定（倉野・井手）
14	一般的な体力測定（倉野・井手）
15	まとめ（倉野・井手）

【履修上の注意事項】

実習に際しては、適した服装で受講すること。

アスレティックトレーナーを目指す学生は、必ず受講すること。

予習は、授業前にテキストを読み、基礎項目の解剖学・運動学について再学習しておくこと。

復習は、特に指定の評価技術（関節可動域テスト、徒手筋力テスト、整形外科的テスト）は、実技として習得すること。

【評価方法】

出席態度は、積極的姿勢で授業に参加すること。

出席態度、確認の試験等（実技試験と筆記試験）を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 検査・測定と評価
(AT受験希望者は必ず購入すること)

【参考文献】

新・徒手筋力検査法 協同医書出版社

スポーツ障害の評価

担当教員 平崎 和雄

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、アスレティックトレーナーはスポーツ障害を評価する上で必要な、スポーツ動作の観察と分析の意義や基礎知識、スキルについて分かりやすく解説し、歩行動作や走動作、投動作などの各動作の基礎知識を習得、競技特性を理解しながら応用し、スポーツ選手の障害の予防やコンディショニングにつなげられる評価スキルを身に付けることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	スポーツ障害の評価の目的と意義
2	スポーツ障害の評価とEBM
3	歩行のバイオメカニクス
4	歩行動作に影響する要因
5	走動作のバイオメカニクス
6	走動作に影響を与える要因
7	走動作における外傷、障害の発生機転の特徴とメカニズム
8	ストップ、方向転換動作のバイオメカニクスと影響因子
9	跳動作のバイオメカニクスと影響を与える因子
10	跳動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴
11	投動作のバイオメカニクスと影響を与える因子
12	投動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴
13	あたり動作のバイオメカニクスと影響を与える因子
14	あたり動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴
15	まとめ

【履修上の注意事項】

授業前に前回の作成した図表を復習し、授業後は次回のテキストを予習し動作のイメージをしておくこと

【評価方法】

試験 70%、課題レポート 20%、予習復習による自主的学習態度 10%

【テキスト】

講義中に資料を配布する

【参考文献】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 「検査測定」

財団法人日本体育協会

スポーツコンディショニング概論

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成30年度から開講

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、学修者が、コンディショニングの概念、目的、要素を理解し、アスリートの競技活動で目標とする最高のパフォーマンス発揮のための要因、競技特性を踏まえたコンディショニング評価法や多様なスポーツ場面でその時々求められる目的にあったコンディショニングの実際の方法、傷害予防のためのアプローチ、そのための環境設定の方法を学び、コンディショニングを意識したトレーニング計画立案やアドバイスができるよう学び、多様なスポーツ現場に対応できる能力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

以下の項目について講義および実習形式で学習を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	コンディショニングの概念と要素
3	コンディショニングの評価法
4	トレーニング計画とコンディショニング
5	競技力向上目的のコンディショニングの実際（競技力向上）
6	競技力向上目的のコンディショニングの実際（スプリント・エンデュアランス・サーキット）
7	傷害予防目的のコンディショニングの実際（ストレッチング）
8	疲労回復目的のコンディショニングの実際（スポーツマッサージ）
9	疲労回復目的のコンディショニングの実際（アイシング）
10	疲労回復目的のコンディショニングの実際（アクアコンディション）
11	ウォームアップとクールダウンの方法と実際
12	コンディショニングのためのフィットネスチェックの実際
13	コンディショニングのためのフィールドテストの実際
14	コンディショニングのための身体組成テストの実際
15	コンディショニングのための柔軟性テストの実際

【履修上の注意事項】

実習に際しては適した服装で受講するようすること。
授業前に資料を準備してきて、授業後は次回の資料を作成してこること
アスレティックトレーナーを目指す学生は、必ず受講すること。

【評価方法】

実習内容の習得度、定期試験等を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 「予防とコンディショニング」

【参考文献】

スポーツ栄養学Ⅱ

担当教員 小田 和人

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

スポーツ栄養学の中でも、特に『アスリートの栄養管理』という観点から栄養学を学びます。また実習やグループワークを通して、アスリートの栄養管理を体感します。アスリートに助言できるために必要な知識を身に付けることがこの授業の到達目標です。

【授業の展開計画】

栄養学に関する基礎知識を学び、アスリート特有の栄養への応用を身に付けます。また、栄養素から食事へ展開し、日常に取り入れられるよう、実習も行います。

週	授 業 の 内 容
1	スポーツ栄養概論
2	消化・吸収、エネルギー代謝
3	アスリートの身体組成、ウエイトコントロールと食事
4	スポーツにおける栄養素の働き、水分摂取の特徴
5	エネルギー供給系および競技特性別にみた栄養摂取、スポーツ栄養におけるガイドライン
6	トレーニングスケジュールや期分け別の食事
7	栄養欠陥に基づく疾病と対策
8	サプリメントと栄養エルゴジェニック
9	コンビニ・外食での食事の選び方
10	アスリートの食事計画(基礎編:食事バランスのとり方)
11	アスリートの食事計画(発展編:食品から考えた献立作成)
12	アスリートの食事計画(実践編:トレーニングスケジュールに合わせた献立作成)
13	アスリートの食事計画(調理実習:日常生活に取り入れやすいメニュー)
14	アスリートの食事計画(調理実習:特定の栄養素を補給を目的としたメニュー)
15	アスリートの栄養管理

【履修上の注意事項】

- ・授業前はテキストを読むこと。また、日頃の食事や市販品、外食等に興味を持ち、食事バランスについて検討すること。
- ・授業後はテキストを復習すること。また、授業で得た知識を生かし、日頃の食生活からアスリートの食事への応用を検討すること。
- ・受講にあたってはマナーを守り、積極的な態度で臨んで下さい。

【評価方法】

授業態度 10%、グループワーク・レポート 30%、試験 60%

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨スポーツと栄養 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスリートのための栄養・食事ガイド (財)日本体育協会監修 小林修平編著 第一出版

研究方法論

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

医学研究においては科学的根拠に基づいた論理的な考え方や手法を身につけることが必要であり、これは科学的思考と根拠に基づいた医療（EBM）を実践するための基礎となる。そのため、本講義では次の4点を目的とする。
①研究課題の立案から学会発表・論文作成に至るまでの流れに沿う各項目の基本的考え方や注意点について説明できる。
②文献を検索することができる。
③基本的な統計処理ができる。
④発表のための図・表を作成できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	研究とは（研究の目的、意義、研究課題の見つけ方）	塚本
2	文献検索の方法	（図書館・福本）
3	リソースの評価と活用（文献、機器など）	塚本
4	研究デザインの考え方：疑問から目的、仮説へ（背景と意義）	塚本
5	研究倫理	塚本
6	研究計画書の構成と内容	田口
7	研究方法（量的研究と質的研究、観察研究と介入研究）	塚本
8	研究における東洋医学的アプローチ	篠原
9	卒業研究発表会への参加	塚本、篠原、田口
10	統計学（1）基礎知識	篠原
11	統計学（2）検定法	篠原
12	データの管理	篠原
13	データの解釈と疫学	塚本
14	データのまとめと学会発表：図・表の作り方、ExcelとPowerPointの使用方法	田口
15	論文作成：構成と手順	田口

【履修上の注意事項】

履修内容を把握し、思考過程の論理的・科学的な展開を心がける。普段から研究の題材を自ら探し、科学的思考を適用してみる。4年生の卒業研究発表会には全員必ず出席し、卒業研究の実際を体感する。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

特に指定はしない。必要に応じて担当教員が資料を配布または文献を紹介する。

【参考文献】

- ①「はじめての研究法（第2版）」監修：千住秀明ほか。神陵文庫。
- ②「マンガでわかる統計学」著：大上丈彦。サイエンス・アイ新書。

卒業研究

担当教員 平崎 和雄

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、「アスレティックトレーナー専門実習」「フィットネスマネジメント実習」をとおして得られたデータ等をもとに、スポーツ競技特性、スポーツ傷害特性などについて研究できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法
3	研究テーマ・内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討
5	研究計画書の作成
6	研究計画書の発表
7	データの収集
8	データの追加収集
9	データの検討
10	データの処理
11	データの解析
12	研究報告書の作成
13	研究報告書の中間報告
14	研究報告書の完成
15	研究報告の発表

【履修上の注意事項】

「アスレティックトレーナー専門実習」及び「フィットネスマネジメント実習」等よりデータを得たりスポーツ運動による特異性を考慮したテーマを持つ者
授業前には前回の進捗に応じ資料を作成し、授業後は資料を共有し管理できるようにすること

【評価方法】

研究報告書が作成でき、発表できているか評価する

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

特記なし

卒業研究

担当教員 塚本 紀之、浅井 福太郎

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸スポーツ学科での学習の総まとめとなるのがこの科目です。研究グループ/チームの中で指導にあたる教員との個人的接触および学生が自ら学び・考え・探求することにより「研究の進め方」を学ぶことを目的とします。特に、①鍼灸と生体防御システム（免疫）に関する事、②鍼灸と運動に関する事、③鍼灸と各種療法（温泉、森林浴など）について研究を展開していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/研究とは何か
2	鍼灸の研究領域について
3	研究チームのテーマ①鍼灸と生体防御系について
4	研究チームのテーマ②鍼灸と疼痛制御について
5	リサーチ・クエスチョン
6	文献精読とディスカッション（1）
7	文献精読とディスカッション（2）
8	文献精読とディスカッション（3）
9	文献精読とディスカッション（4）
10	文献精読とディスカッション（5）
11	文献情報の整理・体系化
12	研究計画の立案～仮説、実験方法の選択
13	研究計画書の作成（1）
14	研究計画書の作成（2）
15	研究計画書の発表

【履修上の注意事項】

熱意と根性、途中であきらめないこと。時間の厳守、提出物などの締め切りを守ること。研究グループ/チーム内の行事などに積極的に参加するなど協調性を有しチームで協力して研究ができる人。講義・研究前の予習：次のテーマや実験内容について配布資料をよく読み、不明な点があれば担当教員に質問して理解しておくこと。講義後の復習：各回の講義・研究後は、実験ノートのまとめをし、担当教員のチェックを次の講義・研究時に受けること。

【評価方法】

教員による評価（80%） 研究への取り組み姿勢、提出物の内容などを総合的に評価します。
研究チーム内学生による評価（20%） 研究チーム内学生同士が、研究への取り組み方、貢献度などを総合的に評価します。

【テキスト】

必要に応じ紹介します。

【参考文献】

必要に応じ紹介します。

卒業研究

担当教員 篠原 昭二

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

鍼灸医学を学ぶ過程において種々の疑問を持つであろうが、その中の一つを題材として、これまでの文献調査による概要の理解、実験研究を行うに当たってのプロトコルの作り方、対照群の設定、研究計画の作り方、実験研究、データ処理、統計計算、考察、プレゼンテーションまでの過程を学修する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	実験研究について学ぶ	16	パイロット実験を検証する
2	疑問のある課題を見つけ出す	17	研究計画の見直しを行う
3	和文文献調査の方法を学ぶ	18	実験研究を開始する(1)
4	テキスト文献調査の方法を学ぶ	19	実験研究を開始する(2)
5	欧文文献調査の方法を学ぶ	20	実験研究を開始する(3)
6	和文文献調査の結果を報告する	21	実験研究を開始する(4)
7	テキスト文献調査の結果を検証する	22	実験研究を開始する(5)
8	欧文文献調査の結果を報告する	23	実験研究を開始する(6)
9	研究プロトコルを作成する	24	実験研究を開始する(7)
10	研究プロトコルを検証する	25	実験研究を開始する(8)
11	研究プロトコルを完成する	26	データ整理を行う
12	具体的な研究計画を立案する	27	統計処理を行う
13	具体的な研究計画を検証する	28	考察を考える(現代医学的)
14	具体的な研究計画を完成する	29	考察を考える(東洋医学的)
15	パイロット実験を行う	30	プレゼンテーションを行う

【履修上の注意事項】

自分なりの疑問をいかにして明らかにするかを考え、調査し、実験計画を立て、実践し、考察し、分析する方法論を学ぶ。たとえ未熟でもよいから、自分で考えて、自分で動き、自ら実践することを重視する。

【評価方法】

実験結果の良しあしではなく、プロセスを重視して、最後まで完遂することが不可欠である。また、実験研究における創意・工夫を重視する。

【テキスト】

特に指定しない。しかし、実験計画法や統計処理等について調査する必要がある。

【参考文献】

全日本鍼灸学会雑誌、日本伝統鍼灸学会雑誌等の研究報告を参考にする。

卒業研究

担当教員 田口 太郎

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

鍼灸医療・スポーツ科学分野において「常に新しい知見を探究する能力」を修得することが、【卒業研究】【卒業研究論文】を通しての共通目標です。【卒業研究】では、自らが関心を持ったテーマにおいて、研究の必要性・研究の構成要素・研究の手順を知り、卒業研究論文作成に向けて、研究計画書が作成できることを目的とします。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究

担当教員 井手 裕子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

学修者が「アスレティックトレーナー専門実習」および「フィットネスマネジメント実習」を通して得られた経験・データをもとにスポーツ競技特性、スポーツ外傷障害特性、体力の特性などについて研究できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法
3	研究テーマ・内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討
5	研究計画書の作成
6	研究計画書の発表
7	データの収集
8	データの収集
9	データの検討
10	データの処理
11	データの解析
12	研究報告書の作成
13	研究報告書の中間報告
14	研究報告書の完成
15	研究報告の発表

【履修上の注意事項】

スポーツならびに健康・運動による特異性に考慮したテーマを持つもの

【評価方法】

研究報告書の作成ならびに発表

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

論文検索や抄読を行うことで、研究テーマを絞ります。また統計について学習し、結果をまとめ論文作成について学習を行います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	研究テーマの絞り込みについて（1）
2	研究テーマの絞り込みについて（2）
3	研究テーマの絞り込みについて（3）
4	文献検索について（1）
5	文献検索について（2）
6	文献検索について（3）
7	データ入力について（1）
8	データ入力について（2）
9	統計解析について（1）
10	統計解析について（2）
11	統計解析について（3）
12	研究内容についてのディスカッション（1）
13	研究内容についてのディスカッション（2）
14	研究計画書の作成（1）
15	研究計画書の作成（2）

【履修上の注意事項】

ゼミでの集合時間を厳守すること。それぞれの役割について責任を持って作業を行うこと。

【評価方法】

実験やデータ入力、統計処理、資料作成等を総合的に判断し、評価を行います。

【テキスト】

必要に応じ適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じ適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 久保 春子

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

興味・関心・疑問を持ったテーマに関する先行研究論文を精読し、ディスカッションを行い、研究目的を明確にする。研究推進に必要な方法・手順の概要を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業展開等）
2	文献検索と論文精読① 研究テーマ検討
3	文献検索と論文精読② 研究テーマ検討
4	文献検索と論文精読③ 研究テーマおよび研究目的の明確化
5	文献検索と論文精読④ リサーチクエスチョン
6	文献検索と論文精読⑤ 研究方法の検討
7	文献検索と論文精読⑥ 研究方法の検討
8	仮研究計画書の作成
9	実験① データ収集
10	実験② データ収集
11	実験③ データ収集
12	実験④ データ収集
13	データの分析と整理 ディスカッション
14	検討した結果をもとに研究テーマや計画を再検討
15	研究計画書の完成

【履修上の注意事項】

自主的・積極的に取り組むこと。研究にはチーム単位で取り組むため原則として欠席は不可。やむを得ず欠席する場合は指導教員に必ず連絡すること。

【評価方法】

各課題や研究計画書などの提出物、ゼミへの参加状況、グループワークの内容、取り組む姿勢など総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに応じ適宜紹介する。

【参考文献】

テーマに応じ適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 内田 匠治

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでの鍼灸学、東洋医学、解剖学、生理学のその他中で疑問に思ったことについて実験的に検討する。また、鍼灸東洋医学について古典的な疑問がある学生については文献学的なアプローチにて検討する。以上のことを通して、科学的思考、論証ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	研究方法について
2	テーマの選び方
3	文献検索の方法について、文献の読み方
4	実験計画法
5	予備実験をしてみる1) プロトコルの作り方、実験倫理について
6	予備実験をしてみる2) 実際に実施しながら細かな注意点を考える
7	予備実験をしてみる3) データのまとめ方について
8	予備実験をしてみる4) 統計処理について
9	本実験の計画を立てる
10	実験計画の検討
11	本実験を実施
12	本実験を実施
13	本実験を実施
14	データのまとめ
15	結果を簡易なレポートにまとめる

【履修上の注意事項】

他のゼミ生と協力して実施する必要があるため、各自が積極的に参加すること。他人にまかせて手を抜くようなことがないようにすること。

【評価方法】

作成過程の貢献度などを総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに応じ適宜紹介する。

【参考文献】

テーマに応じ適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 齋田 和孝、久保 春子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

科学的研究は、既知の客観的事実や理論（過去の研究成果）に基づいて仮説を立て、具体的に調査・実験等によって得られた客観的事実（結果）を論理的に考察することによって仮説を実証する一連の作業である。研究における考え方は、臨床の実践においても重要な基礎的能力となる。ここでは、臨床的にも重要な免疫系を題材とし、鍼灸施術による影響に関する研究を具体的に実践しながら、科学的根拠に基づいて論理的に考えることができるようになることを主眼とする。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション（研究とは何か）、まず興味を持とう！
2. 先行研究を調べてみよう！
3. もっとたくさん調べてみよう！
4. どんな疑問をもったかな？
5. その疑問、どうすれば解決できるんだろう？
6. 仮説を立てて、物語を作ってみよう！
7. 具体的には何を調査・実験すればいいのかな？
8. 研究計画を立ててみよう！ついでに結果も予想しよう！
9. 研究計画書を書こう！物語を完成させるためのレシピだよ！
10. 実際に調べてみよう！
11. もっとしっかり調べてみよう！
12. 結果を整理してみよう！予想通りの結果だったかな？
13. みんなで検討してみよう！新しい発見があるかも？
14. で、いったい何が明らかになったの？
15. さあ、物語を完成させよう！

【履修上の注意事項】

常に疑問をもち、自主的・積極的に取り組むこと。原則として欠席は不可。やむを得ず欠席する場合は必ず連絡すること。

【評価方法】

レポート課題（研究計画書など）70%、研究に取り組む姿勢と「授業のねらい」の習熟度30%、として総合的に評価する。

【テキスト】

とくになし

【参考文献】

研究テーマにあわせて適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 山下 忍

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

スポーツに関する個々人のテーマをもとに計画作成を行う。本講座では各種スポーツから見た身体の特徴、身体計測、トレーニングの効果、比較能力の検討などについて研究設定を行うことができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の意義について説明できる。
2	研究の進め方と研究計画書の作成について説明できる。
3	研究内容の検討と研究テーマの作成について説明できる。
4	研究仮説の検討および討議の方法について説明できる。
5	参考文献の選定およびテーマの再構築について説明できる。
6	各テーマごとの作業について説明できる。
7	データー収集について説明できる。
8	データー収集からみたテーマの整合性の検討について説明できる。
9	調査・実験・結果のデーター収集処理について説明できる。
10	調査・実験・結果のデーター収集処理について説明できる。
11	調査・実験・結果のデーター収集処理について説明できる。
12	参考文献との比較検討および論文作成について説明できる。
13	論文作成について説明できる。
14	論文完成および論文発表書類作成について説明できる。
15	論文発表方法について説明できる。

【履修上の注意事項】

予習として文献を読み、要点をまとめておくこと
 復習として実験データを整理し、考察をレポートしておくこと。

【評価方法】

研究目的、方法、結果、結果考察、結語、参考文献が正しく記載され、科学的に処理され心理的な考察、生理学的考察、測定方法が十分であることを評価する

【テキスト】

特定図書の設定はない。テーマにより参考図書が必要となる。

【参考文献】

特定図書の選定はない。

卒業研究

担当教員 野口 恭庸

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

自身が疑問に思った事象について、個人的な印象ではなく、誰もが納得できる事実として認めてもらうためには、どのような手続きや手法が必要なのか、学修者が適切に考え、見出すことができることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。東洋医学・鍼灸に関する研究の特徴が説明できる
2	どんな疑問を持っているか意見交換（研究テーマの素材選び）
3	その疑問に関連する文献を色々探し、読んでみる
4	もっとも興味を引く疑問を選んで仮研究テーマを決める
5	選んだテーマについて、これまでに行われている研究（先行研究）を調べる
6	さらに視野を広げて先行研究を調べる
7	疑問の解決方法についてグループ討論
8	そろえるべきデータ、そのための調査・実験方法、導かれる結果を想像してみる
9	仮研究計画（構想）を練ってみる
10	調査・実験を行い、得られたデータを分析してみる（A）
11	（A）を踏まえて、さらに調査・実験を行い、得られたデータを分析してみる（B）
12	（B）を踏まえて、さらに調査・実験を行い、得られたデータを分析してみる（C）
13	得られた結果を整理して、グループ討論
14	検討した結果をもとに、テーマや計画を修正してみる
15	「研究計画書」を完成させる

【履修上の注意事項】

ゼミ内での共同作業が多くなりますので、原則、欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合は指導教員に必ず連絡をすること。

【評価方法】

各課題、研究計画書などの提出物、ゼミへの参加状況80%、グループワークの内容、取り組む姿勢20%、として総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 齋田 和孝、久保 春子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

論文とはプレゼンテーション方法の一つである。研究でどんなに素晴らしい結果が得られても、きちんと人に伝えることができなければ研究した意味がない。また、医療の実践においてもさまざまな場面でプレゼンテーション能力が要求される。ここでは、卒業研究での結果を論文としてまとめ、口頭発表も経験することによって、論理的でわかりやすいプレゼンテーションができるようになることを主眼とする。

【授業の展開計画】

1学期（1．～15．）卒業研究に準じて研究を進め、結果を出す

- 16．プレゼンテーションの基本
- 17．論文のフォーマット
- 18．根拠をもったデータの提示
- 19．統計処理の意味と目的
- 20．検定の考え方
- 21．検定の進め方
- 22．データの解釈と考察
- 23．表やグラフの作り方
- 24．図表の提示の仕方
- 25．わかりやすい表現と文章力
- 26．論理的な文章の組み立て
- 27．文献の使い方
- 28．スライドの作成
- 29．口頭発表の実際
- 30．卒業研究論文の作成

【履修上の注意事項】

自主的・積極的に取り組むこと。原則として欠席は不可。やむを得ず欠席する場合は必ず連絡すること。

【評価方法】

完成した論文の内容70%、研究に取り組む姿勢と「授業のねらい」の習熟度30%、として総合的に評価する。

【テキスト】

とくになし

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 山下 忍

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

スポーツに関する研究は多岐にわたり、個人々のテーマをもとに計画作成を行う。本講座で設定可能な方法は、各種運動種目、トレーニング種などからの測定、身体計測、統計学、身体適性、トレーニングの効果、比較能力の性差などについて研究設定を行うことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業論文の意義について説明できる。	16	データー処理のしかたについて説明できる。
2	研究の進め方と研究計画作成を説明できる。	17	調査・実験・結果について説明できる。
3	研究内容の検討について説明できる。	18	データーの検討について説明できる。
4	研究テーマの選定について説明できる。	19	参考文献との比較検討を説明できる。
5	テーマの目標と目的について説明できる。	20	参考文献との比較検討を説明できる。 2
6	研究仮説の検討について説明できる。	21	文章の書き方について説明できる。
7	グループごとの研究課題について説明できる。	22	論文作成の分担項目について説明できる。
8	参考文献の抽出について説明できる。	23	論文作成について説明できる。
9	テーマの再構築について説明できる。	24	論文作成について説明できる。
10	テーマごとの作業について説明できる。	25	論文集約について説明できる。
11	データ収集方法について説明できる。	26	論文完成について説明できる。
12	データ収集について説明できる。	27	論文抄録作成について説明できる。
13	データ収集の状況について説明できる。	28	論文発表書類作成について説明できる。
14	データの内容について説明できる。	29	模擬論文発表について説明できる。
15	内容の報告の仕方について説明できる。	30	論文発表について説明できる。

【履修上の注意事項】

予習として文献を読み、要点をまとめておくこと
 復習として実験データを整理し、考察をレポートしておくこと。

【評価方法】

研究目的、方法、結果、結果考察、結語、参考文献が正しく記載され、科学的に処理され心理的な考察、生理学的考察、測定方法が十分であることを評価する。

【テキスト】

特定図書の設定はない。テーマにより10～20冊の参考図書が必要となる。

【参考文献】

特定図書の設定はない。

卒業研究論文

担当教員 野口 恭庸

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

病院、鍼灸治療院における症例検討会や、研修会・学会発表など、卒業後も様々な場面でプレゼンテーション能力が要求される機会に遭遇します。臨床で自身が得た有用な情報を、スタッフ間で共有したり、同じ医療の現場で働く鍼灸師達に提供する上で、“正確に解りやすく伝える”ことはとても大切です。学修者が卒業研究で学んだ科学的な思考・検証によって得られた成果を、論文としてまとめ、またその成果を発表する上で必要な技術、要領などを理解し、身に付けることを目的とする。

【授業の展開計画】

4月～5月 「卒業研究」の授業展開にしたがって進める。
必要に応じて、テーマの修正および研究計画の修正を行う。

6月～9月…調査、実験等によるデータ収集ならびに解析

10月 …研究発表の準備
抄録作成、図表・画像などの素材作成、スライド（パワーポイント）準備、
発表メモ作成、口頭発表方法の学習、予演会
…論文作成の準備

11月～12月…研究発表会
…卒業研究論文の完成・提出

【履修上の注意事項】

ゼミ内での共同作業が多くなりますので、原則、欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合は指導教員に必ず連絡をすること。
指定された期日までに卒業研究論文が提出されない場合は評価の資格を喪失しますので、十分注意すること。

【評価方法】

研究発表、卒業研究論文、ゼミへの参加状況50%、グループワークの内容、取り組む姿勢、論文の内容50%、として総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 平崎 和雄

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学修者が、「アスレティックトレーナー専門実習」「フィットネスマネジメント実習」をとおして得られたデータ等をもとに、スポーツ競技特性、スポーツ傷害特性などについて研究論文が作成できる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	研究報告書の見直し
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法	17	研究論文テーマの検討
3	研究テーマ・内容の検討	18	研究論文内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討	19	研究論文仮説の検討
5	研究計画書の作成	20	研究論文先行研究・参考文献の検討
6	研究計画の発表	21	研究論文データの収集
7	データの収集	22	研究論文データの検討
8	データの追加収集	23	研究論文データの解析
9	データの検討	24	研究論文作成
10	データの処理	25	研究論文中間発表
11	データの解析	26	研究論文完成
12	研究報告書の作成	27	研究論文抄録作成
13	研究報告書の中間報告	28	研究論文抄録完成
14	研究計画書の完成	29	研究論文模擬発表
15	研究報告の発表	30	研究論文発表

【履修上の注意事項】

卒業研究を「アスレティックトレーナー専門実習」及び「フィットネスマネジメント実習」等よりデータを得て報告書を作成・発表した者
授業前の予習、授業後の復習を忘れないようにすること

【評価方法】

卒業研究論文が作成でき、発表できているか評価する

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

特記なし

卒業研究論文

担当教員 塚本 紀之、浅井 福太郎

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業研究での学習成果をもとに、研究テーマに関する理解を深め、実験し、結果をまとめていく能力を育成します。実験データの分析と整理、考察、結論を導くことを通し問題解決能力を養い、最終的に卒業研究論文の作成、発表（プレゼンテーション）を行い、自らの情報発信能力を身に着けます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	実験, データ収集, 分析, 整理 (1)	16	研究論文の論理構成を考える (2)
2	実験, データ収集, 分析, 整理 (2)	17	図表を作る (1)
3	実験, データ収集, 分析, 整理 (3)	18	図表を作る (2)
4	実験, データ収集, 分析, 整理 (4)	19	結果を書く (1)
5	実験, データ収集, 分析, 整理 (5)	20	結果を書く (2)
6	実験, データ収集, 分析, 整理 (6)	21	方法を書く (1)
7	プログレスレポート (1)	22	方法を書く (2)
8	実験, データ収集, 分析, 整理 (7)	23	考察を書く (1)
9	実験, データ収集, 分析, 整理 (8)	24	考察を書く (2)
10	実験, データ収集, 分析, 整理 (9)	25	緒言を書く (1)
11	実験, データ収集, 分析, 整理 (10)	26	緒言を書く (2)
12	実験, データ収集, 分析, 整理 (11)	27	要旨を書く (研究論文の完成)
13	実験, データ収集, 分析, 整理 (12)	28	卒業研究発表の準備 (1)
14	プログレスレポート (2)	29	卒業研究発表の準備 (2)
15	研究論文の論理構成を考える (1)	30	卒業研究発表

【履修上の注意事項】

熱意と根性、途中であきらめないこと。時間の厳守、提出物などの締め切りを守ること。研究グループ/チーム内の行事などに積極的に参加するなど協調性を有しチームで協力して研究ができる人。講義・研究前の予習：次のテーマや実験内容について配布資料をよく読み、不明な点があれば担当教員に質問して理解しておくこと。講義後の復習：各回の講義・研究後は、実験ノートのまとめをし、担当教員のチェックを次の講義・研究時に受けること。

【評価方法】

教員による評価 (80%) 研究への取り組み姿勢、提出物の内容などを総合的に評価します。
研究チーム内学生による評価 (20%) 研究チーム内学生同士が、研究への取り組み方、研究への貢献度などを総合的に評価します。

【テキスト】

必要に応じ紹介します。

【参考文献】

必要に応じ紹介します。

卒業研究論文

担当教員 篠原 昭二

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究を通して得られた成果を論文あるいは構造化抄録の形式でまとめることが目的である。

【授業の展開計画】

各单元ごとの授業形態はとらないが、卒業研究を通して、構造化抄録の形式で卒業論文をまとめることが目的である。

【履修上の注意事項】

実験研究を丁寧に実践して、その成果についてまとめることが求められる。

【評価方法】

研究結果をまとめ、考察し、論文を完成することが求められる。

【テキスト】

指定なし

【参考文献】

指定なし

卒業研究論文

担当教員 田口 太郎

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

【卒業研究論文】では、【卒業研究】で作成した研究計画書に沿って、チームで実際に研究を進め、得られた知見を研究論文という形にすることで、論理的な思考能力、問題解決能力、文書作成能力を養います。また、研究発表を通して、口述によるプレゼンテーション能力を身に付けます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 井手 裕子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学修者が「アスレティックトレーナー専門実習」および「フィットネスマネジメント実習」を通して得られた経験・データをもとにスポーツ競技特性、スポーツ外傷障害特性、体力の特性などについて研究・論文作成・発表ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	研究報告書の見直し
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法	17	研究論文テーマの検討
3	研究テーマ・内容の検討	18	研究論文内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討	19	研究論文仮説の検討
5	研究計画の作成	20	研究論文先行研究・参考文献の検討
6	研究計画の発表	21	研究論文データ収集
7	データの収集	22	研究論文データ検討
8	データの収集	23	研究論文データの解析
9	データの検討	24	研究論文作成
10	データの処理	25	研究論文中間発表
11	データの解析	26	研究論文完成
12	研究報告書の作成	27	研究論文抄録作成
13	研究報告書の中間報告	28	研究論文抄録完成
14	研究報告書の完成	29	研究論文模擬発表
15	研究計画書の発表	30	研究論文発表

【履修上の注意事項】

卒業研究を「アスレティックトレーナー専門実習」及び「フィットネスマネジメント実習」等においてデータを収集し報告書を作成・発表した者

【評価方法】

卒業論文および発表

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

文献調査、実験、解析、論文作成を行うことで、研究テーマに関する理解と能力を育成します。その中で、物事に対して自らで考える力を身に着けます。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	データ収集（1）	16	実験（8）
2	データ収集（2）	17	実験（9）
3	データ収集（3）	18	実験（10）
4	データ収集（4）	19	データ入力
5	データ分析、整理（1）	20	統計解析
6	データ分析、整理（2）	21	論文作成（1）
7	データ分析、整理（3）	22	論文作成（2）
8	データ分析、整理（4）	23	論文作成（3）
9	実験（1）	24	論文作成（4）
10	実験（2）	25	論文作成（5）
11	実験（3）	26	論文作成（6）
12	実験（4）	27	要旨作成
13	実験（5）	28	研究発表の準備
14	実験（6）	29	研究発表（1）
15	実験（7）	30	研究発表（2）

【履修上の注意事項】

ゼミでの集合時間を厳守すること。それぞれの役割について責任を持って作業を行うこと。

【評価方法】

実験やデータ入力、統計処理、資料作成等を総合的に判断し、評価を行います。

【テキスト】

必要に応じ適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じ適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 久保 春子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

【卒業研究】の科目と連動して論文作成を行う。
卒業研究論文作成に必要な、①研究計画立案、②データ収集・処理、③研究成果の発表(プレゼンテーション)、④卒業研究論文作成を行い、論理的な思考能力・問題解決能力・文書作成能力を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	【卒業研究】の展開に従う。	16	実験① データ収集、分析、整理
2	【卒業研究】の展開に従う。	17	実験② データ収集、分析、整理
3	【卒業研究】の展開に従う。	18	実験③ データ収集、分析、整理
4	【卒業研究】の展開に従う。	19	実験④ データ収集、分析、整理
5	【卒業研究】の展開に従う。	20	データの図表作成
6	【卒業研究】の展開に従う。	21	データの解釈と考察
7	【卒業研究】の展開に従う。	22	卒業研究論文作成① 方法・結果
8	【卒業研究】の展開に従う。	23	卒業研究論文作成② 考察
9	【卒業研究】の展開に従う。	24	卒業研究論文作成③ 考察
10	【卒業研究】の展開に従う。	25	卒業研究論文作成④ 諸言
11	【卒業研究】の展開に従う。	26	卒業研究論文作成⑤ 要旨
12	【卒業研究】の展開に従う。	27	研究発表会 スライド作成
13	【卒業研究】の展開に従う。	28	研究発表会 プレゼンテーション
14	【卒業研究】の展開に従う。	29	卒業研究論文作成⑥ 仕上げ
15	【卒業研究】の展開に従う。	30	卒業研究論文作成⑦ 完成

【履修上の注意事項】

自主的・積極的に取り組むこと。研究にはチーム単位で取り組むため原則として欠席は不可。
やむを得ず欠席する場合は指導教員に必ず連絡すること。

【評価方法】

研究発表、卒業研究論文 60%
ゼミへの参加状況、グループワークの内容、取り組む姿勢など総合的に評価 40%

【テキスト】

テーマに応じ適宜紹介する。

【参考文献】

テーマに応じ適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 内田 匠治

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究で行った内容をさらに構造化された論文としてまとめていく。必要であれば、追加の実験を実施する。

それらをまとめて卒論発表会にてプレゼンテーションを行う。授業を通して、各種ソフトの使用やわかりやすいプレゼンテーションができるようになり、論理的な文章を構成し作成することができるようになる。

【授業の展開計画】

9月～10月末までに
卒業研究発表のスライド資料を完成させる。

12月初旬までに
卒業研究論文を作成する。

それぞれのテーマに応じ、データのまとめ方やスライド、論文作成方法を指導する。

【履修上の注意事項】

実験などで、本来の授業時間以外にも実施することがあるのでゼミ内で話し合い調整すること。

【評価方法】

発表と卒論作成の貢献度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じ適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じ適宜紹介する。

国際協力論

担当教員 安藤 学、川原 英照、川原 光祐、久家 誠司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日、貧困・教育・紛争・環境破壊・エイズ・食糧問題など地球規模の諸問題はますます深刻な状況にあります。このような問題は、私たち日本人にとっても遠い国の問題ではありません。私たちも国際社会の一員として、世界の国々と協調連帯して国際協力を推進するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

保健・医療・福祉分野の国際協力の事例を入れて授業を展開する

週	授 業 の 内 容
1	国際協力とは何か(安藤)
2	政府開発援助(安藤)
3	政府開発援助の事例(安藤)
4	NGOにおける民間協力(安藤)
5	NGOにおける民間協力の事例(安藤)
6	技術協力の方法(川原光祐)
7	技術協力の方法の事例(久家)
8	参加型開発(久家)
9	参加型開発の事例(安藤)
10	国際協力の理念(久家)
11	国際協力の理念の事例(久家)
12	国際協力の事例(民間)(久家)
13	国際協力の事例(政府)(川原英照)
14	国際理解と支援活動(安藤・前田)
15	今後の国際協力のあり方(安藤)

【履修上の注意事項】

オムニバスであるので、毎回出席を心がける。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート80% 授業への取り組み20%

【テキスト】

資料を準備する

【参考文献】

適宜紹介する

危機管理と災害支援

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日常生活の中においても、危険は常に存在する。もちろん日常生活だけではなく拡大して考えれば地球上にはいろんな危険が存在しており、それに対する危機管理が必要である。家庭内の危険から出発し国際紛争までにいたる危機管理について学ぶ。

そして、災害についての危機管理と災害発生後の支援のあり方について検討する能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	危機管理論オリエンテーション
2	危機管理とは何か
3	危険とは何か
4	家庭における危険と危機管理
5	地域社会における危険と危機管理
6	学校における危険と危機管理
7	企業における危険と危機管理
8	国家における危険と危機管理
9	国家間のバランスと危機管理
10	現場からの危機管理（外部講師講話）
11	現場からの危機管理（外部講師講話）
12	災害支援の方法 1（災害発生時）
13	際が支援の方法 2（自活生存）
14	災害支援の方法 3（避難救助）
15	危機管理をはじめよう

【履修上の注意事項】

外部講師の講話もあるので、毎回出席を心がける。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート提出（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する

災害支援演習

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

災害支援の場合、常に支援協力活動にあたる要員の為に、快適な宿泊設備、生活物資が用意されているとは限らない。むしろ多くの場合が、災害被災地であったり、生活物資の不足する場所での支援協力活動である。支援協力活動において任務を遂行するために、まず自分自身の安全の確保と生命の維持が確保されなければならないし、またチームワークも重要である。この演習では、協力協同の精神を涵養し災害場面を想定して自活生存、生命維持のための基本的な方法と共に、支援活動に必要な基本技術を修得できる。

【授業の展開計画】

この演習では、「海上訓練」と「陸上訓練」に分けて集中的に実施する。

「海上訓練」では短艇(カッター)を用いて協同協力の精神を養い、「陸上訓練」では実際にテントを設営し野営して自活生存方法を修得する。また「海上訓練」「陸上訓練」を通じてチームワークの重要性を学ぶ。実施の時期については、前もってオリエンテーションを開き説明指導する。ただしこの演習で、他の授業に支障(公欠で授業を欠席)がでないように、夏季休暇中の実施する。

「海上訓練」(9月上旬 4日間 長洲海洋センター/前面海域)

短艇(カッター)・帆走(ヨット)・結索(ロープワーク)・安全管理・気象観測・溺者救助・応急処置・信号通信・統率(指揮)法

「陸上訓練」(9月中旬 2泊3日 大学構内/蛇が谷公園)

オリエンテーリング(地図見・コンパス見方)・ロープ技術(ロープ渡り・降下等)・野営方法(テント設営・炊飯等)・安全管理・救急処置(傷病者搬送方法含む)・統率(指揮)法

※ 「海上訓練」・「陸上訓練」とも、学内において事前指導を行った後に実施する

【履修上の注意事項】

演習に際しては、安全確保のために指定の作業着・帽子・作業靴を着用する。(作業着等については、貸与するが、食事代と作業服のクリーニング代は各自負担) 演習前に出された課題を完成させて授業に臨み、演習後は演習で学んだことを復習をすること。事前に配布された資料を学習しておき、演習終了後は各自で復習を定期的におこなうこと。

【評価方法】

技能(80%)、演習態度(20%)

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

なし

体力測定評価法

担当教員 井手 裕子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考 健康運動指導士・健康運動実践指導者の資格を希望する者は当該内容の授業を履修のこと

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

【授業のねらい】

健康の保持増進のためには、運動習慣の有無が強い影響を与えることはよく知られている。ただ、過度の運動やトレーニングは時には両刃の剣であり、対象者によっては関節や骨、あるいは筋肉や腱を痛めることにもなるとことを理解しておくことが必要である。本講義において、学修者は、健康増進のための運動の在り方について理解を深め、適切なアドバイスを与えることができるよう、各年齢・活動レベルに応じた体力測定の実際とその評価、運動の強度と身体反応について理解することができる。

【授業の展開計画】

以下の項目について演習及び実習形式で学習を進める

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	体力の定義と体力測定の目的
3	体力測定の意義と各種測定法概論
4	形態・体格の測定
5	身体組成（体脂肪量など）の測定
6	中年者の体力測定法（理論）
7	中年者の体力測定法（測定）
8	中年者の体力測定法（評価）
9	高齢者の体力測定法（理論）
10	高齢者の体力測定法（測定）
11	高齢者の体力測定法（評価）
12	介護予防に関する体力測定（理論）
13	介護予防に関する体力測定（測定）
14	介護予防に関する体力測定（評価）
15	体力測定値の統計処理

【履修上の注意事項】

演習・実習で構成するので動きやすい服装で参加すること。
健康運動指導士・健康運動実践指導者は必ず履修すること。

【評価方法】

自主的学修態度(10%)・課題レポート(20%)・定期試験等(70%)で総合的に評価する

【テキスト】

適宜プリントを配布する

【参考文献】

健康運動指導士養成講習会テキスト（上）（下）

体力測定・評価

担当教員 府内 勇希

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

備考 高等学校教諭一種免許状取得希望者は当該内容の授業を履修のこと。

【授業のねらい】

本講義では、健康・体力の維持、増進に携わる人材に不可欠な体力測定およびその評価の方法について理解し、年齢や体力レベルに応じて適切な運動処方ができるようになる。また、運動に対する身体の基本的な反応について説明できる。

【授業の展開計画】

以下の項目について演習及び実習形式で学習を進める

週	授 業 の 内 容
1	健康・体力の概念および測定評価の意義を説明できる
2	健康・体力にかかわるデータ集計の方法について説明できる
3	基本的な統計処理の方法について説明できる
4	形態の測定方法について説明できる
5	形態の評価方法について説明できる
6	新体力テストの測定方法について説明できる
7	新体力テストの評価方法について説明できる
8	有酸素性能力（PWC170）の概念と測定方法について説明できる
9	有酸素性能力（PWC170）の評価方法について説明できる
10	無酸素性能力（ウィングートテスト）の概念と測定方法について説明できる
11	無酸素性能力（ウィングートテスト）の評価方法について説明できる
12	筋力の測定方法およびその留意点について説明できる
13	筋力の評価方法について説明できる
14	スポーツ動作の観察・分析の方法について説明できる
15	スポーツ動作の評価方法について説明できる

【履修上の注意事項】

測定の際は必ず運動できる服装で参加すること。また、体調を整えて参加すること。

【評価方法】

レポート（60%）、受講態度（40%）

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

『健康運動実践指導者養成講習会テキスト』
その他、適宜紹介する。